

## アジア経済ビジネス事情

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

今日のアジアでは、ITの発展に伴い、新たなビジネスや産業が創出されている。本講義の前半では、アジアの産業構造変化やビジネスのあり方について講義する。後半では、県企業のアジア進出の事例を紹介する。なおこの科目は、両学科の共通科目なので、多くの学生が受講することを希望します。また国際交流に興味のある学生は大歓迎です。

### 【授業の展開計画】

第1回目の講義で詳細については説明する。

### 【履修上の注意事項】

1. プリント学習に取り組むことが必要である。
2. 課題の提出を忘れない。

### 【評価方法】

出席、課題一回、期末テストなどで総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。適宜、プリント等を配布する。

### 【参考文献】

特に指定しない。

## 暗号化とセキュリティ

担当教員 又吉 光邦

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

昨今、個人情報や企業の機密情報の流出が、深刻な社会的な懸案事項となってきている。情報漏洩を防ぐ方法、本人確認の手法など暗号の重要性が見直されている。本講義では、暗号の歴史から現在の主な暗号方法までの概要を学ぶことをねらいとしている。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ギリシア・ローマ時代の暗号
2	古代中国の暗号
3	第二次世界大戦と暗号技術
4	情報化による文明構造の変革（デジタル技術とマルチメディア）
5	情報セキュリティの登場
6	社会基盤としてのポストモダン暗号
7	現代社会と暗号利用
8	インターネット・電子投票・電子キャッシュ
9	共通鍵暗号Ⅰ
10	共通鍵暗号Ⅱ
11	素数の世界
12	公開鍵暗号Ⅰ
13	公開鍵暗号Ⅱ
14	疑似ランダムビット列によるストリームデータの暗号Ⅰ
15	疑似ランダムビット列によるストリームデータの暗号Ⅱ
16	テスト

## 【履修上の注意事項】

教科書はありません。

プロジェクトを用い、説明します。

必要な資料は、pdf形式で電子掲示板にアップロードしますのでダウンロードして下さい。

## 【評価方法】

テストと授業態度

## 【テキスト】

テキストの指定は、ありません。

必要な資料は、pdf形式で電子掲示板にアップロードしますのでダウンロードして下さい。

## 【参考文献】

インターネット上の暗号に関するWebページ。

## 意思決定論

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

意思決定は我々の日常生活から組織体の活動に至るまで欠かすことのできない行為であり、特に企業においては組織の存続に関わることも多く、意思決定を効果的に行うためには情報収集・現状分析・代替行為の決定といった一連の情報処理プロセスを理論的根拠に基づき実践することが必要となる。

本講義では、人間の主観的判断の計測や収集情報の整理、問題構造の分析等を支援する際に有効となる意思決定支援手法やアルゴリズムについて学習する。また、これらの手法の適用事例も適時紹介する。

### 【授業の展開計画】

本講義では、意思決定を支援する手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	意思決定支援手法の概要
2	意思決定基準 (i)
3	意思決定基準 (ii)
4	意思決定と確率 (i)
5	意思決定と確率 (ii)
6	期待値と期待効用
7	主観確率
8	主観的判断の計測と階層分析法 (i)
9	主観的判断の計測と階層分析法 (ii)
10	階層構造と構造化アルゴリズム (i)
11	階層構造と構造化アルゴリズム (ii)
12	マルコフ連鎖 (i)
13	マルコフ連鎖 (ii)
14	リスクと不確実性 (i)
15	リスクと不確実性 (ii)
16	

### 【履修上の注意事項】

第1回目の講義に欠席したものは、登録を取り消す場合があるので、必ず出席すること。  
また、講義の3分の1以上欠席したものは原則不可とするので注意すること。

### 【評価方法】

試験結果、レポート、出席状況により評価する。

### 【テキスト】

未定（第1回目の講義の際に連絡します。）

### 【参考文献】

- (1) 木下栄蔵 著「わかりやすい意思決定入門」, 近代科学社
- (2) 松原望 著「意思決定の基礎」, 朝倉出版

## ウェブデザイン演習

担当教員 安里肇クラス、平良直之クラス (2クラス)

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

インターネット上で情報を発信する場合にはHTMLを用いてウェブサイト構築するのが一般的である。HTMLの特徴として文字情報だけではなく、音声、画像、アニメーション等の視覚的にアプローチできるマルチメディア媒体である。本演習では、Adobe社のPhotoshop, Illustratorなどのアプリケーションを用いてHTML上でのロゴ作成や画像画像処理およびその加工を行う。最終的には、上記のアプリケーションを使ったコンテンツをHTML上で融合させて、ウェブサイトのデザインを各自に試作してもらう。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス/受講受付
2	Photoshopの基本操作
3	Photoshopのペイントツール
4	Photoshopによる選択ツール
5	Photoshopによる画像補正と色調補正
6	Photoshopによる画像合成とフィルタ
7	Photoshopによるロゴの作成
8	Illustratorの基本操作
9	Illustratorの基本図形の描画とパスの作成
10	Illustratorによるオブジェクトの編集
11	Illustratorによるイラストの作成と文字の作成
12	Illustratorによるロゴの作成
13	Illustratorによるシンボルマークの作成
14	Illustratorの応用機能とPhotoshopとの連携
15	制作作品プレゼンテーション1
16	制作作品プレゼンテーション2

## 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す(出席できない場合は事前に連絡すること)。産業情報学科の学生以外は登録できない。教室収容人数の関係で1年次のみ登録する。2年次以上の受講者は第1週目において教室で登録を行う。

## 【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と課題レポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

## 【テキスト】

講義時に指定する。

## 【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する予定である(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

## ウェブプログラミング

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

インターネットの普及にともない、我々はHPの閲覧だけでなくメール、ブログ、インターネットショッピングといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関連する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・PHPの開発環境
2	PHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）
3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）
4	演習：PHPの基礎
5	関数の利用①（文字列・配列の操作）
6	関数の利用②（ファイルの操作、メール送信）
7	演習：関数の利用
8	ウェブプログラミングの基礎①（テキスト・ボタンの利用）
9	ウェブプログラミングの基礎②（認証、セッション、外部コマンド）
10	演習：ウェブプログラミングの基礎
11	PHPによるデータベースの利用①（データベースの基本操作）
12	PHPによるデータベースの利用②（データベース接続とデータの検索）
13	PHPによるデータベースの利用③（データの挿入・更新・削除）
14	演習：PHPによるデータベースの利用
15	総合課題演習
16	総括

### 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。

### 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

### 【テキスト】

ハーシー「速効!図解プログラミングPHP + MySQL」毎日コミュニケーションズ（2005）

### 【参考文献】

アंक「PHPの絵本」翔泳社（2007）

酒徳 峰章, インターネット・アカデミー「PHP公式資格教科書」技術評論社（2011）

岡本 雄樹, アシアル株式会社「イラストでよくわかるPHP はじめてのWebプログラミング入門」（2012）

## ウェブプログラミング

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

インターネットの普及にともない、我々はHPの閲覧だけでなくメール、ブログ、インターネットショッピングといった様々なサービスを利用できるようになった。本講義では、ウェブシステムに関連する基本的な技術の習得を目指す。プログラミング言語としてPHPを採用し、言語知識に加えてウェブサービスやデータベースについても適宜解説し、ウェブシステムを総合的に理解できるよう配慮する。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	PHPの開発環境
2	PHPの基礎①（記述ルール、定数、配列）
3	PHPの基礎②（制御文、ユーザ定義関数）
4	演習：PHPの基礎
5	関数の利用①（文字列・配列の操作）
6	関数の利用②（ファイルの操作、メール送信）
7	演習：関数の利用
8	ウェブプログラミングの基礎①（テキスト・ボタンの利用）
9	ウェブプログラミングの基礎②（認証、セッション、外部コマンド）
10	演習：ウェブプログラミングの基礎
11	PHPによるデータベースの利用①（データベースの基本操作）
12	PHPによるデータベースの利用②（データベース接続とデータの検索）
13	PHPによるデータベースの利用③（データの挿入・更新・削除）
14	演習：PHPによるデータベースの利用
15	総合課題演習
16	総括

## 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。

## 【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験およびレポート(150点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

## 【テキスト】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

## 【参考文献】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

## ウェブマーケティング

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

インターネットの登場によりこれまでの企業活動は新たな局面を迎え、ウェブテクノロジーによりパラダイムシフトを遂げた。企業の事業内容によって異なるが、一般的にウェブサイトによる広告宣伝活動、電子商取引活動、顧客との双方向通信、また、事業内容に関連する市場調査やマーケティングリサーチにウェブサイトやウェブ技術を応用することなどがウェブマーケティングに含まれる。このようなインターネットの商用利用の歴史、技術的な側面、さらにマーケティングにおける応用などを包括的に取り上げ講義を行っていく。

### 【授業の展開計画】

インターネットを利用すると消費者への自社ブランドの印象付けや、顧客ロイヤルティの獲得、リピータ確保などに効果が高く、うまく使いこなせば他メディアより低いコストで極めて効果の高いマーケティング効果を得ることができる。しかしながら、効率的に高い効果を得るためには、高度なノウハウが必要とされる。このような技術的な側面も含めて講義を進めていく。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	マーケティングとは
3	データマイニングとデータウェアハウス
4	インターネットの歴史
5	インターネットの技術
6	ウェブサイト構築のための技術
7	企業におけるウェブサイトの利用と管理業務
8	ウェブマーケティング
9	インターネット広告
10	SNSとブログ
11	SEO対策
12	有料リスティングサービス-P4P-
13	様々な応用例 -コンテンツ連動型広告、RSS広告-
14	アクセスログ解析
15	最終試験
16	総括

### 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。

### 【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。4年次以上の受講生は注意すること。

### 【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

### 【参考文献】

講義時に紹介する。

## エグゼクティブ・セミナー

担当教員 -上地 哲

対象学年 2年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

激動の時代、ニューノーマル（変わる常態）の時代。何が起ころか、予測のつかない社会の常態という意味です。経済的にはデフレの時代です。もはや景気の良い時代は予測できません。2011年3月11日の東日本大震災は、大きな犠牲の結果、日本人の意識を大きく変えました。「人は何のために働くのか」、「何のために生きるのか」、国や社会が新しいライフスタイルを提示できない混迷の時代。社会的存在である一人ひとりが、それぞれの生きている時代と無関係ではられません。人はどう生きればいいのか、生きかたの哲学を、国内外で活躍する企業家、ジャーナリスト、デザイナーなど様々な世界で活躍する方々の生き方から学んでいきたい。

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 講義概要（ガイダンス）社会の変遷 高度情報化社会の誕生
- 2 週目 新たなる社会の動きー3.11東日本大震災後の意識の変化
- 3 週目 沖縄経済の現況 未成熟な産業と自立できない構造
- 4 週目 観光産業の現場
- 5 週目 建築業界の動向
- 6 週目 情報産業の位置づけと方向性
- 7 週目 食品産業の場合
- 8 週目 福祉業界の状況
- 9 週目 ジャーナリズムに求められるもの
- 10 週目 健康食品産業の動向
- 11 週目 文化産業とは
- 12 週目 商品開発とマーケティング
- 13 週目 ブランディング戦略
- 14 週目 ニューノーマル時代をどう生きるか
- 15 週目 沖縄の自立は可能か 期末試験

### 【履修上の注意事項】

遅刻・早退・欠席は届けでること

### 【評価方法】

成績評価は出席状況、課題提出、講義中の学習態度、期末試験結果を総合的に判断して行う。

### 【テキスト】

できるだけパワーポイント等で説明するのでノートをとってください。テキスト・資料については必要に応じて配布する。

### 【参考文献】

必要に応じて紹介する。

## 応用マクロ経済学 I

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

一国または一地域の経済全体の動向を対象に集計量として、経済の変数間の関係を理論的、実証的に明らかにするのがマクロ経済学です。

マクロ経済学のスキルを使い、沖縄経済、日本経済、アジア経済の動向を解明し、我々の周りで起こっている経済現象をわかりやすく説明します。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済とは
2	マクロ経済学への誘い
3	経済の循環
4	ストックとフロー
5	消費と投資
6	消費関数
7	投資関数
8	所得の決定 所得は何によって生まれるか
9	乗数効果
10	IS曲線、LM曲線、
11	お金とは
12	信用創造
13	中央銀行の役割
14	インフレとデフレ
15	資産市場とマクロ経済
16	金融政策

### 【履修上の注意事項】

1から優しく教えますが、積み木のような構造になっているので、途中理由無く休まないこと。

### 【評価方法】

テストとりポーにより評価します。

### 【テキスト】

一つのテキストを使うわけではないので値適宜紹介します。

### 【参考文献】

適宜紹介します。

## 応用マクロ経済学Ⅱ

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

応用マクロ経済学1を基に、できるだけ、沖縄経済、日本経済、アジア経済等の解説をしていきたい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	財政政策
2	貿易と経済
3	失業と経済
4	経済成長
5	産業連関分析(1)
6	産業連関分析(2)
7	産業連関分析(3)
8	沖縄経済のマクロ分析(1)
9	沖縄経済のマクロ分析(2)
10	沖縄経済のマクロ分析(3)
11	日本経済マクロ分析(1)
12	日本経済のマクロ分析(2)
13	日本経済のマクロ分析(3)
14	アジア経済のマクロ分析(1)
15	アジア経済のマクロ分析(2)
16	試験

### 【履修上の注意事項】

応用マクロ経済学1を履修していることが望ましい。理由無く休まないこと。

### 【評価方法】

テストとレポートにより評価する。

### 【テキスト】

適宜紹介する。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 応用ミクロ経済学 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

経済学は限られた資源（土地、労働力、設備やお金など）で財・サービスを生産し、それを分配し、消費して生活をするという人間の経済活動について研究する。ミクロ経済学は、売り手と買い手が市場の価格を通じて意志決定を行うという市場メカニズムについて究明する。講義では主に「家計の経済活動における意志決定」、「企業の経済活動における意志決定」を取り上げる。

### 【授業の展開計画】

- 第一回 家計の経済活動：選好と効用
- 第二回 無差別曲線の性質①
- 第三回 無差別曲線の性質②
- 第四回 予算の制約
- 第五回 需要量の決定①
- 第六回 需要量の決定②
- 第七回 所得変化・価格変化の効果
- 第八回 企業の生産活動、生産関数①
- 第九回 生産関数②
- 第十回 費用曲線①
- 第十一回 費用曲線②
- 第十二回 産出量の決定①
- 第十三回 産出量の決定②
- 第十四回 供給変化の効果
- 第十五回 期末試験

### 【履修上の注意事項】

第一回目の講義の際に履修上の注意を連絡します。テキストは履修上の注意を聞いてから購入して下さい。

### 【評価方法】

出席、レポート提出、期末試験を基に総合的に評価します。

### 【テキスト】

伊藤元重『ミクロ経済学』、日本評論社

### 【参考文献】

①N・G・マンキュー著、足立ほか訳、『マンキュー経済学 I ミクロ編』、東洋経済新報社、2000年

## 応用ミクロ経済学Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

応用ミクロ経済学Ⅰで学習した家計と企業の経済行動の知識を基に、市場の資源配分についてさらに学習を深める。まず、完全競争市場における資源配分の効率性についてふれ、次に独占市場や寡占市場、独善的競争市場について学ぶ。さらに、市場がうまく機能しない市場の失敗について学び、不完全な情報の下では経済行動に問題が生じ、資源配分がうまくいかないことについて学習する。

### 【授業の展開計画】

- 第1回 応用ミクロ経済学Ⅱ概要説明
- 第2回 完全競争市場と資源配分①
- 第3回 完全競争市場と資源配分②
- 第4回 独占市場について①
- 第5回 独占市場について②
- 第6回 寡占市場について①
- 第7回 寡占市場について②
- 第8回 中間試験
- 第9回 独占的競争市場①
- 第10回 独占的競争市場②
- 第11回 市場の失敗①
- 第12回 市場の失敗②
- 第13回 不完全情報①
- 第14回 不完全情報②
- 第15回 期末試験

### 【履修上の注意事項】

応用ミクロ経済学Ⅰを履修することが望ましい。

### 【評価方法】

出席状況、小テスト、課題、中間テスト、期末テストの状況を総合して評価します。

### 【テキスト】

第一回目の講義の時間に説明します。テキストは説明を聞いてから購入してください。

### 【参考文献】

- ①「ミクロ経済学」伊藤元重、日本評論社
- ②「ミクロ経済学」嶋村紘輝、成文堂

## オペレーションズリサーチ

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

オペレーションズ・リサーチ (OR) とは最適戦略に関連する手法の総称であり、第二次世界大戦中のイギリスで様々な分野の科学者が招集され、軍の配備や防空システムといった軍事目的の研究に着手したことが発端だと言われている。また、複雑化・多様化した現代社会において、最良の方針を模索するための合理的・科学的アプローチは企業や政府、自治体にとって必須となっており、ORの考え方は効果的な情報処理という意味でも重要な位置づけにある。

## 【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。また、受講生の理解度を深めるため、適宜、PC教室での演習も行う。

週	授 業 の 内 容
1	ORとは
2	線形計画法(i)
3	線形計画法(ii)
4	線形計画法(iii)
5	線形計画法(iv)
6	日程計画とPERT(i)
7	日程計画とPERT(ii)
8	日程計画とPERT(iii)
9	在庫管理(i)
10	在庫管理(ii)
11	在庫管理(iii)
12	待ち行列理論(i)
13	待ち行列理論(ii)
14	待ち行列理論(iii)
15	待ち行列理論(iv)
16	

## 【履修上の注意事項】

- ①本講義は、意思決定論、知的情報処理などに関連する科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、講義を登録させないこともあるので注意すること。

## 【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

## 【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

## 【参考文献】

- (1) 福田・児玉・中道 著「OR入門」, 多賀出版
- (2) 大村平 著「ORのはなし」, 日科技連
- (3) 森・松井 著「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店

## 企業情報論 I

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

ITの急速な発展を背景として、企業におけるIT活用の高度化はとどまることを知らない。次々と出現する技術あるいはコンセプトにより、この傾向はさらに加速度的に進行するものと思われる。本講義では、企業経営におけるITの役割に着目し、その段階的な進歩の過程と各フェイズにおける企業サイドからの情報システムへの期待の変容などをロジカルに考察しながらより定性的な理解を目指していく。

### 【授業の展開計画】

- 1週目 情報の特質と価値
- 2週目 情報技術の進化
- 3週目 通信ネットワーク技術の進化
- 4週目 セキュリティシステムと暗号化技術
- 5週目 インターネットと企業
- 6週目 ケーススタディー (1)：情報化の歴史
- 7週目 情報の産業化：情報産業の発展
- 8週目 企業の情報化：企業における情報技術の活用
- 9週目 情報技術と競争優位の戦略①
- 10週目 情報技術と競争優位の戦略②
- 11週目 知的財産権と競争優位
- 12週目 ケーススタディー (2)：特許権と競争優位
- 13週目 ケーススタディー (3)：著作権と競争優位
- 14週目 デファクト・スタンダードと競争優位
- 15週目 ケーススタディー (4)：デファクト・スタンダード
- 16週目 期末試験

### 【履修上の注意事項】

- (1) 成績は、期末試験、レポート、出席日数により総合的に評価する。
- (2) レポート作成の際には、インターネット等を利用した情報収集を要するため、基本的な情報検索技術が必須となる。
- (3) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

### 【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート（4回以上）、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

### 【テキスト】

資料については毎回配布する。

### 【参考文献】

- ・松岡正剛：『情報の歴史』NTT出版 ・山田英夫：『デファクト・スタンダードの経営戦略』中公新書

## 企業情報論Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

ITの発展は企業の高度情報化を促し、その構造を根本的に変革する重要なファクターとなっている。本講義では、企業情報論Ⅰで取り上げた企業と情報技術の多層的な関係を十分に理解したとの前提に基づき、企業における情報システムのマネジメントに着目し、様々なビジネスモデルにおける競争戦略上の優位性について解説する。また近年注目されているCGM(Consumer Generated Media)などの革新的なサービスなどについても言及し、それらを有効活用する新たなビジネスモデルの構築事例について適宜紹介していく。

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 経営情報システムの進化
- 2 週目 情報システムマネジメントの原理①
- 3 週目 情報システムマネジメントの原理②
- 4 週目 情報システムのマネジメントモデル
- 5 週目 ITマネジメントとアウトソーシング
- 6 週目 通信ネットワークを活用したアウトソーシング
- 7 週目 ケーススタディ(1)：アウトソーシング
- 8 週目 中小企業の情報システム
- 9 週目 ECの現状
- 10 週目 ケーススタディ(2)：EC向けASP
- 11 週目 ECにおける法的課題
- 12 週目 ビジネスモデル特許
- 13 週目 遠隔地域における情報技術の戦略的活用
- 14 週目 ロジスティックシステムとSCM
- 15 週目 ケーススタディ(3)：物流の情報化
- 16 週目 期末試験

### 【履修上の注意事項】

- (1) レポート作成の際には、インターネット等を利用した情報収集を要するため、基本的な情報検索技術が必須となる。
- (2) 出席日数が3分の2に満たない者には原則として単位を与えない。

### 【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート（4回以上）、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

### 【テキスト】

テキストおよび資料については毎回配布する。

### 【参考文献】

- ・ゴートン B. デービス：『マネージング・インフォメーション』 ・ハーバート・ビジネス・レビュー編：『ITマネジメント』

## 企業と産業財産権

担当教員 有賀 俊二

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

企業で知的財産権担当として実践できる実務的な講座

- 1) 知的財産権の魅力
- 2) 商標・特許の調査（特許庁のHP）
- 3) 商標出願の実際（特許庁に出願）  
特許庁のホームページを活用した実践的講義とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	知的財産権制度の全体概要と企業経営における役割
3	企業の知的財産権活用事例研究
4	商標制度の概要と商標権の役割
5	特許制度の概要：特許公報の読み方
6	意匠制度の概要と意匠権の役割
7	実用新案制度の概要と特許法と相違
8	著作権、不正競争防止法と知的財産権
9	知財経営
10	商標情報検索実習（1）
11	商標情報検索実習（2）
12	商標出願書類の作成演習
13	特許情報検索実習
14	簡単な特許出願書類の作成演習
15	商標・特許のトラブル事例
16	出願課題提出

### 【履修上の注意事項】

講義では、特許庁のホームページを実際に活用しながら進める。

### 【評価方法】

講義の中で実際に特許庁に出願するレベルの商標登録の書類作成をする。  
オリジナルの商標を考え、調査し、書類を作成するところまでは最低ラインとする。  
これに課題レポートなどを考慮して評価する。

### 【テキスト】

特許庁のHPの参照の他、適時、提供する。

### 【参考文献】

なし

## 基礎演習 I

担当教員 又吉 光邦

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義では、コンピュータの基本的な処理について学び、簡単な計算や反復計算、条件分岐のプログラム作成を通して、プログラミングについて理解を深めてもらうことを目的とする。

### 【授業の展開計画】

人の行う情報処理は、(1) 順次処理、(2) 反復処理、(3) 分岐処理の3つで構成されている。コンピュータのシステム(プログラム)もこれら3つの処理の組合せで成り立っている。本講義ではこれらについて、スクラッチおよびプログラミング言語Javaを用いて実際に簡単なプログラムの作成で学習する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・スクラッチとは
2	スクラッチの基本操作(1) スプライトの動き
3	スクラッチの基本操作(2) 制御命令
4	スクラッチの基本操作(3) サウンド制御
5	スクラッチの基本操作(4) 見た目の制御
6	スクラッチの基本操作(5) 条件分岐
7	シューティングゲームの作成(1)
8	シューティングゲームの作成(2)
9	シューティングゲームの作成(3)
10	Javaでの開発手順
11	画面に文字を表示するプログラムを記述する。
12	プログラムの作成 I (順次処理)
13	プログラムの作成 II (if文:分岐処理)
14	プログラムの作成 III (for文:反復処理)
15	課題。
16	課題提出

### 【履修上の注意事項】

出席および毎回の講義での授業態度は、評価対象として大きなウェートを占めます。

### 【評価方法】

出席率、授業態度、課題、試験。

### 【テキスト】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム、電子掲示板に掲示するプリント(各自印刷)。

### 【参考文献】

やさしいJava、ソフトバンク、高橋麻奈

## 基礎演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては、対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案する創造力、そしてそれを遂行する実行力などを含めた総合的な能力としての問題解決能力が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解し、より単純な要素の組み合わせとして表現し、さらに各要素が互いにどのように関係するのか、どのような条件でどの要素を用いるのかなどといった問題解決の手順を記述したものである。

本演習では、このような理解のもとに、プログラミングによる問題解決能力の養成を目指す。

### 【授業の展開計画】

本演習では、プログラミングを通じた問題解決能力の養成を主眼としていることから、プログラミング環境としてアイコンベースのビジュアルプログラミング言語である「Scratch（スクラッチ）」を用いる。

各課題においては、ワークシート上にてアイディアのラフスケッチを描き、それをPAD（Problem Analysis Diagram：問題分析図）にて図示した後にプログラムを行う手順を取る。

- 1：ガイダンス(スクラッチとは)
- 2：プログラムとアルゴリズム
- 3：PAD（Problem Analysis Diagram：問題分析図）
- 4：スクラッチの基本操作(1) スプライトの動き
- 5：スクラッチの基本操作(2) 制御命令
- 6：スクラッチの基本操作(3) サウンド制御
- 7：スクラッチの基本操作(4) 見た目の制御
- 8：スクラッチの基本操作(5) 条件分岐
- 9：シューティングゲームの作成(1)
- 10：シューティングゲームの作成(2)
- 11：シューティングゲームの作成(3)
- 12：個人製作によるゲームの企画・開発(1)
- 13：個人製作によるゲームの企画・開発(2)
- 14：個人製作によるゲームの企画・開発(3)
- 15：最終発表会(1)
- 16：最終発表会(2)

### 【履修上の注意事項】

演習科目であるため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。また私語や欠席の多い学生については、講義途中であっても不可を通達する場合がある。学籍番号毎にクラスが割り当てられるので登録にあたって注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。また、この演習の単位を取得していない場合は、2年次の専門演習 I（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。

### 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可となる（基本、皆出席を求める）。評価は、受講態度、試験、レポート、成果物などにより総合的に判断する。

### 【テキスト】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム

### 【参考文献】

藤吉弘亘 他「実践ロボットプログラミング ―LEGO Mindstorms NXTで目指せロボコン!」近代科学社

## 基礎演習 I

担当教員 小渡 悟

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案することができる創造力、そしてそれを遂行できる実行力などを含めた総合的な能力（問題解決能力）が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解して、より単純な要素の組み合わせとして表現することから始まる。そして、各要素が互いにどのように関係しているのか、どのような条件でどの要素を使うのかなど問題解決の方法自体を記述したものがプログラムとなる。

本演習ではプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。

## 【授業の展開計画】

本演習では、プログラミングを通じた問題解決能力の養成を主眼としていることから、プログラミング環境としてはアイコンベースのビジュアルプログラミング言語である「Scratch（スクラッチ）」を用いる。各課題においては、ワークシート上にてアイデアのラフスケッチを描き、それをPAD（Problem Analysis Diagram：問題分析図）にて図示した後にプログラムを行う手順を取る。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・スクラッチとは
2	プログラムとアルゴリズム
3	PAD (Problem Analysis Diagram：問題分析図)
4	スクラッチの基本操作（1）スプライトの動き
5	スクラッチの基本操作（2）制御命令
6	スクラッチの基本操作（3）サウンド制御
7	スクラッチの基本操作（4）見た目の制御
8	スクラッチの基本操作（5）条件分岐
9	シューティングゲームの作成（1）
10	シューティングゲームの作成（2）
11	シューティングゲームの作成（3）
12	個人製作によるゲームの企画・開発（1）
13	個人製作によるゲームの企画・開発（2）
14	最終発表会（1）
15	最終発表会（2）
16	

## 【履修上の注意事項】

演習科目のため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。私語や欠席の多いものは講義途中で不可を通達する場合がある。

学籍番号毎にクラスが割り当てられるので注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。また、この演習の単位を取得していない場合は、2年次の専門演習基礎（必修科目）が登録できない可能性もあるため最大限の注意が必要である。”

## 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。評価は受講態度、成果物により総合的におこなう。

## 【テキスト】

石原正雄「スクラッチアイデアブック」カットシステム

## 【参考文献】

藤吉弘亘 他「実践ロボットプログラミング ―LEGO Mindstorms NXTで目指せロボコン!」近代科学社

## 基礎演習 I

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

情報社会ともよばれる現代においては対象事項の膨大な情報を分析・判断する論理的思考力、最適な手順を考案することができる創造力、そしてそれを遂行できる実行力などを含めた総合的な能力（問題解決能力）が求められている。プログラミングは、複雑な問題を適切に分解して、より単純な要素の組み合わせとして表現することから始まる。そして、各要素が互いにどのように関係しているのか、どのような条件でどの要素を使うのかなど問題解決の方法自体を記述したものがプログラムとなる。

本演習ではプログラミングを通しての問題解決能力の養成を目指す。

## 【授業の展開計画】

本演習では、論理的な思考能力の養成、レポート作成の基本的な技能の修得、視覚的なプレゼンテーション技術の修得を目指す。講義前半では「Scratch（スクラッチ）」を用いて、プログラム設計で必要となる要件整理や処理手続きの検討などを学習する。講義後半では個別課題を与え、課題に取り組むだけでなく発表会も開催する。

週	授 業 の 内 容
1	システム開発とプログラミング
2	要件整理と処理手順(i)
3	要件整理と処理手順(ii)
4	Scratchの基本操作(i)
5	Scratchの基本操作(ii)
6	制御命令(i)
7	制御命令(ii)
8	制御命令(iii)
9	シューティングゲームの作成(i)
10	シューティングゲームの作成(ii)
11	個別課題：ゲームの企画と製作(i)
12	個別課題：ゲームの企画と製作(ii)
13	個別課題：ゲームの企画と製作(iii)
14	発表会(i)
15	発表会(ii)
16	総括

## 【履修上の注意事項】

演習科目のため原則として皆出席を求める（欠席が多い場合には不可となる）。実習を含む内容なので、パソコン教室での講義となる。私語や欠席の多いものは講義途中で不可を通達する場合がある。

学籍番号毎にクラスが割り当てられるので注意すること（割り当てられたクラス以外での受講は基本的に認めない）。

## 【評価方法】

評価は出席状況、レポート、授業態度等を総合的に判断する。

## 【テキスト】

開講時に指定する。

## 【参考文献】

開講時に指定する。

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

基礎演習の目的は、産業情報学科における今後の学習に活かすため情報の収集・分析、レポート・論文作成、プレゼンテーションの基本を身につけることです。この演習では、まず身近な経済統計情報を基に情報の収集、整理、統計データの基本的な分析について学びます。次に報告レポートの作成、プレゼンテーションについて学びます。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	基礎演習Ⅱの基本事項
2	インターネットを通じた情報収集①
3	インターネットを通じた情報収集②
4	統計データの分析①（増加率、構成比）
5	統計データの分析②（増加率、構成比）
6	統計データの分析③（寄与率、寄与度）
7	統計データの分析④（寄与率、寄与度）
8	統計データの分析⑤（変動係数）
9	統計データの分析⑥（記述統計）
10	統計データの分析⑦（記述統計）
11	レポート作成の基本①
12	レポート作成の基本②
13	プレゼンテーションの基本①
14	レポート報告とディスカッション①
15	レポート報告とディスカッション②
16	基礎演習Ⅱの総括

### 【履修上の注意事項】

第一回の演習の時間に注意事項を説明します。

### 【評価方法】

出席状況、課題の提出、レポートの報告をもとに総合的に評価します。

### 【テキスト】

テキストは特にしていません。演習の際に参考文献などを紹介します。

### 【参考文献】

- ①『大学生のためのレポート論文術』、小笠原喜康、講談社
- ②『経済論文の作法』、小浜裕久・木村福成、日本評論社

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

現代社会は、情報技術の進歩や社会の急速な変化により情報が大量に氾濫している高度情報社会と呼ばれている。このような社会で生活するためには、情報やデータを主体的に読み取り取捨選択し正しい判断するリテラシー能力が必要不可欠である。

この講義では情報リテラシーおよび統計データを用いた分析など情報分析に関する基本的な能力を習得することを目的とする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、情報リテラシーとは
2	データの読み方①
3	データの読み方②
4	経済統計①
5	経済統計②
6	経済統計③
7	情報・文献の収集①
8	情報・文献の収集②
9	メディアリテラシー①
10	メディアリテラシー②
11	情報の加工と整理、分析①
12	情報の加工と整理、分析②
13	情報の加工と整理、分析③
14	レポート・論文の作成①
15	レポート・論文の作成②
16	まとめ

### 【履修上の注意事項】

レポート作成や課題のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。

### 【評価方法】

受講態度、課題、レポートなど総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

### 【参考文献】

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門-研究のための8つの力-』ミネルヴァ書房、2011年  
 学習技術研究会『知へのステップ-大学生からのスタディスキルズ-第3版』くろしお出版2011年  
 『情報の達人第1巻図書館へ行こう!』紀伊國屋書店 2007年

## 基礎演習Ⅱ

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考 後期閉講

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義の位置づけは、2年次後期から始まるゼミ活動（専門演習基礎（2年次）、専門演習Ⅰ・Ⅱ（3年次）、卒業論文演習Ⅰ・Ⅱ（4年次））の基礎的な役割を担う科目となり、学生生活において非常に重要な科目の1つとなる。本講義では、「産業の情報化」をテーマに、産業におけるデータをどのように取得し、取得したデータからどのように情報を生産し、さらにこれらをどのように表現するかについて学ぶ。基礎演習Ⅰの内容と併せ、ゼミテーマについて、大まかに決められるように意識をして取り組んで欲しい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	データの見方
3	データの処理方法①
4	データの処理方法②
5	レポートの書き方
6	経済・産業情報の検索と取得
7	経済・産業情報の動向調査①（白書、報告書）
8	経済・産業情報の動向調査②（人口）
9	経済・産業情報の動向調査③（労働）
10	レポート課題①
11	経済・産業情報の動向調査④（物価）
12	経済・産業情報の動向調査⑤（景気）
13	経済・産業情報の動向調査⑥（企業）
14	経済・産業情報の動向調査⑦（財政）
15	レポート課題②
16	まとめ

### 【履修上の注意事項】

- ・演習形式で講義を進めるため、原則として遅刻は厳禁
- ・30分以上遅刻した場合、入室を認めない
- ・提出課題を2回とも提出しない場合は、単位を認めない
- ・1/3以上欠席の場合は、単位を認めない
- ・各講義の最後に、確認課題を課する

### 【評価方法】

確認課題30点（2点×15回）、提出課題70点（35点×2回）の合計100点満点において、80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で判定する。

### 【テキスト】

プリントを配付する（講義前にプリントアウトすること）

### 【参考文献】

特に定めない。適宜示します。

## 基礎数学

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

基礎数学の目的は、高校数学 I・Aと産業情報学科で利用する数学への橋渡しである。2年次以降の専門科目を受講するための基礎学力を養成したいと考えている。数学を苦手とする学生は多い。そこで、苦手意識にとらわれず、数学への取り組み方を見なおすことから始めてほしい。計算プロセスを丁寧に記述することや、後々で復習に利用できるノートづくりなど、工夫を加えることで成果が望めるはずである。また、週1回90分の講義であるため、高校とは進行ペースが違う。早めに慣れてもらいたい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済情報と数学：イントロダクション
2	式と計算①
3	式と計算②
4	直線と1次関数
5	まとめと問題練習 1
6	2次関数と最大・最小①
7	2次関数と最大・最小②
8	2次関数と最大・最小③
9	2次不等式
10	指数と対数、いろいろな関数
11	まとめと問題練習 2
12	個数の処理と確率①
13	個数の処理と確率②
14	個数の処理と確率③
15	まとめと問題練習 3
16	期末テスト

### 【履修上の注意事項】

ワークシート・練習問題のプリントを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

### 【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

### 【テキスト】

木村哲三・浦田健二『経済学を学ぶための基礎数学 第2版』同文館出版，2010年。

### 【参考文献】

水野勝之『入門編 テキスト経済数学』中央経済社，2000年。

## 基礎数学

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

情報とは「ある事柄についてのしらせ」であり、物事の判断や行動を起こすきっかけとなる知識と捉えることができる。情報科学の分野ではこれらをデータと呼び、データにいくつかの処理を施すことでより価値のある新しいデータ（情報）を作り出すことを情報処理という。本講義ではまず高校数学の復習を行い、次に微分積分や確率など、情報処理に必要となる基本的な知識を学ぶ。また、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を行い、練習問題をなるべく多くこなすことで受講生が数学的センスを身につけられるよう配慮する。

### 【授業の展開計画】

本講義では、以下の授業計画を基に講義を展開し、経済学および情報科学に必要な基礎的な数学知識を学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	式と計算(i)
2	式と計算(ii)
3	関数(i)
4	関数(ii)
5	関数(iii)
6	平面図形と式(i)
7	平面図形と式(ii)
8	方程式と不等式(i)
9	方程式と不等式(ii)
10	方程式と不等式(iii)
11	順列と組合せ(i)
12	順列と組合せ(ii)
13	確率(i)
14	確率(ii)
15	確率(iii)
16	

### 【履修上の注意事項】

- ①本講義は、情報数学、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。
- ②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。
- ③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

### 【評価方法】

試験結果，出席状況，レポートにより評価する。

### 【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

### 【参考文献】

(1) 石村園子 著「やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分」，共立出版 (2) 情報処理教育研究会 編「情報数学の基礎」，日本理工出版会 (3) 小堆光喜 著「情報処理数学 60DAYS」，実教出版

## 金融情報論 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

金融情報論 I では、「金融システム」および「金融の理論的側面」を講義する。講義の目的は、「産業の情報化」と「金融」の関わりを理解するための、基礎知識を身につけることである。イメージしやすい、身近な金融行動を例にするところから解説をはじめ、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。授業の展開計画にあるように、講義では様々な「金融」の説明が出てくる。受講生には、目の前の「金融」の説明が、「身近なたとえば何処のことか」イメージする習慣を身に付けて欲しい。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	金融市場の基礎知識①
3	金融市場の基礎知識②
4	金融の理論的側面 1 : 金融市場①
5	金融の理論的側面 1 : 金融市場②
6	家計の金融活動
7	企業の金融活動
8	金融の理論的側面 2 : 企業行動①
9	金融の理論的側面 2 : 企業行動②
10	わが国の銀行
11	わが国の金融サービス業
12	金融の理論的側面 3 : 金融仲介①
13	金融の理論的側面 3 : 金融仲介②
14	銀行規制政策
15	わが国の金融政策
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

## 【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

## 【参考文献】

- [1] 滝川好夫『金融論の楽々問題演習』税務経理協会, 2007年。  
 [2] 藤原賢哉・家森信善編著『金融論入門』, 2002年。

## 金融情報論Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

金融情報論Ⅱでは「資金決済システム」および「電子マネー・電子商取引」を中心に講義する。金融部門は情報化と相互に作用しあって発展してきた産業である。従って、金融論の視点から「産業の情報化」について理解することが講義の目的になる。学習内容を身近にイメージする工夫を通じて、「実生活に役立つ知識」としての金融論講義を目指したい。そのため、授業の展開計画にあるような諸内容と、受講生がイメージする「金融」の距離感を縮めるような解説を、常に心がけたい。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	金融と情報システム:イントロダクション
2	資金決済システム①
3	資金決済システム②
4	決済リスク
5	資金決済システムの比較
6	資金決済システムの現在
7	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動①
8	金融の理論的側面1:マネーサプライと銀行行動②
9	電子マネー・電子商取引①
10	電子マネー・電子商取引②
11	金融の理論的側面2:電子マネー・電子商取引と金融①
12	金融の理論的側面2:電子マネー・電子商取引と金融②
13	金融システムと情報技術革新
14	情報技術革新の進展と金融経済①
15	情報技術革新の進展と金融経済②
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

金融論の基礎知識を前提に講義を進めるので、金融情報論Ⅰを受講しておくことが望ましい。

## 【評価方法】

出席, レポート, 試験等により, 総合的に評価する。

## 【テキスト】

教科書は使用しない。講義ノート・資料のプリントを配布して解説する。

## 【参考文献】

- [1] 館龍一郎監修, 日本銀行金融研究所編『電子マネー・電子商取引と金融政策』東京大学出版会, 2002年。  
 [2] 中島真志・宿輪純一『決済システムのすべて(第2版)』東洋経済新報社, 2005年。

## 経営情報システム論

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

企業経営における情報化や情報システム導入の利点を理解し、情報システムの重要性を学ぶ。経営情報システムの構成、経営情報システムによる効果、情報化のインパクトなどを中心に講義を進めていく。具体的には情報技術の経営・経済への応用事例や様々な分野の取り組みを解説する。特に、企業における先進的情報システムの事例を取り上げ、今後の展開としてどのような点が重要かを議論し、また、意思決定システムやシミュレーション技術、ネットワーク技術、データベース技術などの工学的な要素も取り入れて概観していく。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス ー情報システムとはー
2	経営情報システム
3	経営戦略と情報システム
4	意思決定支援システム
5	eビジネスモデル
6	マーケティングとデータマイニング
7	ウェブマーケティング1
8	ウェブマーケティング2
9	前半まとめと中間試験
10	ウェブテクノロジーとビジネスモデル1
11	ウェブテクノロジーとビジネスモデル2
12	ウェブテクノロジーとデータベース技術
13	ユビキタスコンピューティング
14	クラウドコンピューティング
15	後半まとめおよび最終試験
16	試験解答および総括

### 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す。

### 【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。4年次以上の受講生は注意すること。

### 【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する(講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する)。

### 【参考文献】

講義時に紹介する。

## 経済学概論 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

経済学は、希少な資源（土地、資本、労働力など）を用いてモノやサービスを生産し、人間の福利を高め、経済社会の発展に結びつけるかを探求する学問です。私たちの抱える経済問題は、基本的には市場を通じて解決されますが、市場はすべてのことを解決できるほど万能ではありません。今日、経済の国際化、情報化、環境に関連する課題が浮かび上がってきています。講義では、経済学の基本的な考え方を学び、現実の課題に対して経済学からどのように捉えるのかについて取り上げる予定です。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学について
2	ミクロ経済学とは
3	需要曲線について
4	需要曲線と消費者余剰
5	費用の構造と供給行動
6	費用曲線について①
7	費用曲線について②
8	利潤最大化と供給行動
9	中間テスト
10	マクロ経済学について
11	マクロ経済学における需要と供給
12	GDPについて
13	GDPの決定
14	有効需要と乗数メカニズム①
15	有効需要と乗数メカニズム②
16	期末テスト

### 【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。

### 【評価方法】

成績評価は、出席状況、課題の提出状況、中間試験、期末試験の結果を基に行います。

### 【テキスト】

伊藤元重著「入門経済学第3版」日本評論社

### 【参考文献】

- ①「入門経済学」N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社
- ②「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ著、藪下史郎他訳、東洋経済

## 経済学概論 I

担当教員 田口 順等

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

経済学についての入門的・基本的な講義として、ミクロ経済学の分野を中心に講義を行う。ミクロ経済学は経済を構成する個人（家計）や企業の行動について、市場におけるモノやサービスの価格や数量の決定について分析するものである。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学について
2	需要・供給分析
3	需要・供給分析の応用
4	需要曲線と消費者行動
5	需要曲線と消費者余剰
6	供給曲線と企業行動
7	費用の構造と供給行動
8	利潤最大化と供給行動
9	市場と価格メカニズム
10	余剰分析
11	資源配分のゆがみ
12	市場競争と経済発展
13	独占の理論
14	市場の失敗
15	まとめ
16	期末テスト

### 【履修上の注意事項】

配付資料を中心に講義を行うので、各自学習に役立てること。

### 【評価方法】

授業態度・課題・期末試験の3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

### 【テキスト】

伊藤元重『入門 経済学 第3版』日本評論社、2010年

### 【参考文献】

石川秀樹『速習！ミクロ経済学—試験攻略入門塾』中央経済社2011年  
 小暮太一『おちこぼれでもわかるミクロ経済学の本【改訂新版】』マトマ出版2010年  
 吉本佳生、NHK「出社が楽しい経済学」製作班『出社が楽しい経済学』NHK出版2009年

## 経済学概論Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

ミクロ経済学の分野では、市場による資源配分がうまくいかない「市場の失敗」について、外部性や公共財についてとりあげます。また市場が独占や寡占の状態にある場合は、資源配分がどうなるのかとりあげます。次にマクロ経済学の分野では、貨幣とその機能、財政政策と金融政策についてとりあげます。経済学の基本的事項を学習することにより、市場がうまく機能しない場合にはどうしたらよいのか、またデフレ対策、金融緩和など政府が行う経済政策について理解を深めることにつながります。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市場の失敗①外部性について
2	市場の失敗②公共財について
3	独占市場について①
4	独占市場について②
5	寡占市場について①
6	寡占市場について②
7	独占的競争市場について
8	中間テスト
9	貨幣の機能
10	マネーサプライと信用乗数
11	貨幣供給と物価について
12	財政政策について①
13	財政政策について②
14	金融政策について①
15	金融政策について②
16	期末テスト

### 【履修上の注意事項】

第1回目の講義の際に注意事項を説明します。

### 【評価方法】

出席状況、課題の提出状況、中間試験、期末試験を総合的に判断して評価します。

### 【テキスト】

伊藤元重著「入門経済学第3版」、日本評論社

### 【参考文献】

- ①「入門経済学」、N・グレゴリー・マンキュー、東洋経済新報社
- ②「入門経済学」、ジョゼフ・E・スティグリッツ、東洋経済新報社

## 経済学概論Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

この講義では、マクロ経済学の基本的な理論の解説を行う。マクロ経済学とは、経済を全体的に、つまり一国や社会全体でとらえることで現実の経済問題、とくに景気や経済成長について分析を行う経済学の分野である。具体的には経済に影響を与える変数（GDP・物価・利率）や経済政策の有効性についての講義をおこなう。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学について：イントロダクション
2	経済をマクロからとらえる。
3	マクロ経済学とGDP
4	マクロ経済における需要と供給
5	有効需要と乗数メカニズム
6	有効需要と乗数メカニズム
7	需要の決定とマクロ経済の均衡
8	マネーサプライと信用乗数
9	貨幣供給と物価
10	マクロ経済政策
11	財政政策と金融政策
12	マクロ経済政策を巡る論争
13	インフレーション
14	失業
15	まとめ
16	期末テスト

### 【履修上の注意事項】

複数回で一つの講義内容であるため、毎回出席しそれまでの内容を確認しておくこと。  
授業の進捗状況により、授業内容が前後し、変更される場合がある。

### 【評価方法】

授業態度・課題・期末試験の3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

### 【テキスト】

伊藤元重『入門 経済学 第3版』日本評論社、2010年

### 【参考文献】

石川秀樹『速習！マクロ経済学—試験攻略入門塾』中央経済社2011年  
小暮太一『おちこぼれでもわかるマクロの本【改訂新版】』マトマ出版2010年

## 経済数学

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

経済数学の目的は、2年次以降の専門科目で利用する数学の基礎を身につけることである。専門科目で学習する分析ツールを使いこなすには、本講義レベルの数学的理解が要る。そのため、基礎数学に比べて高度な学習内容になる。だが、講義中に自ら計算を試みる態度を持ち続ければ、必ずしも難解にはならない。高度な学習内容は計算全体の一部にすぎず、基本計算の実行が問題解答の大部分なためである。基本計算でミスをしないことが正解するコツであることに、早めに気づいてもらいたい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済情報と数学：イントロダクション
2	微分の基本計算
3	微分の公式と計算①
4	微分の公式と計算②
5	1変数関数の極大・極小
6	偏微分と全微分①
7	偏微分と全微分②
8	偏微分と全微分③
9	まとめと問題練習 1
10	線形代数の基礎①
11	線形代数の基礎②
12	行列式と固有値①
13	行列式と固有値②
14	行列式と固有値③
15	まとめと問題練習 2
16	期末試験

### 【履修上の注意事項】

ワークシート・練習問題のプリントを毎回配布するので、各自で学習に役立てること。

### 【評価方法】

出席，提出物，試験等により，総合的に評価する。

### 【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。

### 【参考文献】

- [1] 浅利一郎・山下隆之『はじめよう 経済数学』日本評論社，2003年。  
 [2] 三土修平『初歩からの経済数学(第2版)』日本評論社，2001年。

## 国際経済学

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得すること。

### 【授業の展開計画】

本講義では国際経済学の基礎知識を理論的に講義する。

週	授 業 の 内 容
1	国際経済学とは何か
2	国際経済の動き
3	国際貿易の基礎理論 (1) 自由貿易の利益
4	国際貿易の基礎理論 (2) リカード・モデル
5	国際貿易の基礎理論 (3) ヘクシャー＝オーリン・モデル
6	新しい国際貿易の理論
7	中間まとめ
8	貿易政策
9	貿易と経済発展
10	生産要素の国際移動
11	国民所得と国際収支
12	為替レート
13	アジアの経済発展
14	中国の経済発展
15	まとめ
16	

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

学習態度や試験結果に基づき評価を行う。

### 【テキスト】

プリントやPDFファイルを配布する。

### 【参考文献】

澤田康幸『基礎コース国際経済学』新世社、井川一宏ほか『基礎 国際経済学』中央経済社、石井安憲ほか『入門・マクロ経済学』有斐閣、上野秀夫ほか『国際経済学』ミネルヴァ書房、など。

## コンピュータ会計

担当教員 一井口 千秋

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

### 【授業の展開計画】

1. 簿記の基礎知識

### 【履修上の注意事項】

1. 簿記を受講したものを優先とします。
2. パソコン教室での授業になります。

### 【評価方法】

出席，授業参加 50%  
レポート 50%

### 【テキスト】

### 【参考文献】

## 最適化概論

担当教員 又吉 光邦

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、組合せ最適化問題について、我々の身近なところに現れる具体例を用いて学ぶことをねらいとしている。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	組合せ最適化についてのあらまし
2	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅰ
3	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅱ
4	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅲ
5	線形計画法を用いた組合せ最適化Ⅳ
6	組合せ最適化問題の例Ⅰ
7	組合せ最適化問題の例Ⅱ
8	巡回セールスマン問題
9	割り当て問題
10	ナップザック問題
11	2次割り当て問題
12	多角形詰め込み問題
13	最適解と局所解、組合せ問題の難しさ（厳密解法と近似解法）
14	進化計算手法による組合せ問題の解法Ⅰ
15	進化計算手法による組合せ問題の解法Ⅱ
16	テスト

## 【履修上の注意事項】

教科書はありません。

プロジェクタで講義内容を投影して、授業を進めます。

講義内容のファイルは、必要に応じて学内掲示板に掲載します。

## 【評価方法】

授業態度とテスト

## 【テキスト】

講義内容を記したパワーポイント形式を配付。

## 【参考文献】

組合せ最適化問題に関するWeb上の参考資料。

## 産業情報特別講義 I (経済と情報)

担当教員 -地主 敏樹

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 その他

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考 夏期集中講義 (世話役: 池宮城尚也)

## 【授業のねらい】

世界金融危機からアベノミクスへの時の流れを縦糸に、欧米とアジア諸国の金融政策や金融危機対応の比較を横糸として、現在の日本が世界経済の中で置かれた状況を金融の側面から観察する視点を育てたい。世界には、様々な金融システムがあり、それぞれに対応した金融政策が運営されているので、それらを知り比較することで、日本の金融システムや金融政策について検討できるようになってほしい。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	アベノミクスの金融緩和について考える
2	アメリカの社会経済と金融システム I : 連邦制とその影響
3	アメリカの社会経済と金融システム II : コモンローとその影響
4	アメリカの社会経済と金融システム III : 国際金融センターの形成
5	金融危機 I : サブプライムローンと証券化
6	金融危機 II : シャドバンキングとパニック
7	金融危機 III : アメリカの政策対応
8	金融危機 IV : アメリカの制度改革
9	ユーロ危機 I : 金融機関の危機—イギリス、アイルランド—
10	ユーロ危機 II : 財政危機—ギリシャ、スペイン—
11	ユーロ危機 III : ユーロ地域の政策対応
12	ユーロ危機 IV : ユーロ地域の制度改革
13	アジア諸国 I : インフレ目標国—韓国とタイ—
14	アジア諸国 II : 非インフレ目標国
15	テスト
16	

## 【履修上の注意事項】

金融情報論 I や応用マクロ経済学 I を履修済みであることが望ましい。

## 【評価方法】

期末テストを中心に評価する。

## 【テキスト】

## 【参考文献】

地主敏樹, 小巻泰之, 奥山英司著『世界金融危機と欧米主要中央銀行: リアルタイム・データと公表文書による分析』晃洋書房 2012年

## 産業情報分析 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネットなどから産業・経済データを収集し、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で行う。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	推移・比較分析
3	順位・比較分析
4	内訳・順位分析
5	関係分析
6	比較・関係分析
7	階層分析
8	集中度・格差分析
9	原因の影響度分析
10	売上傾向分析
11	伸び率分析
12	データの集計分析
13	CS分析
14	データの基本的統計分析（その1）
15	データの基本的統計分析（その2）
16	

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

## 【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

## 【参考文献】

山崎紅『説得できるデータ図解の鉄則 Excelビジュアル活用編』日経BP社、住中光夫『Excelでマスターするビジネスデータ分析 実践の極意』ASCII、上田太郎『新版Excelでできるデータマイニング入門』同友館、等。

## 産業情報分析Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では、産業に関わるデータや情報の収集力および分析力の向上を目標とする。具体的には、インターネット上からの産業データの収集、表計算ソフト（Microsoft Excel）などの統計処理ソフトを用いた分析手法についての学習を行う。なお、本講義は、パソコンを用いた演習形式で進める。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	産業情報データの特性を分析する（1）
3	産業情報データの特性を分析する（2）
4	産業情報データの特性を分析する（3）
5	ものごとの関係を分析する（1）
6	ものごとの関係を分析する（2）
7	ものごとの関係を分析する（3）
8	単一要因の効果の大きさを評価する
9	複数の要因変数の効果を同時に測る（1）
10	複数の要因変数の効果を同時に測る（2）
11	どちらのグループになるかを判別予測する
12	普及率などを予測する
13	定性的データを数量的に分析する（1）
14	定性的データを数量的に分析する（2）
15	まとめ
16	

## 【履修上の注意事項】

## 【評価方法】

出席状況と試験の結果に基づき評価を行う。

## 【テキスト】

PDFファイルやプリントなどを配布する。

## 【参考文献】

渡辺美智子ほか「実践ワークショップ Excel徹底活用 統計データ分析」秀和システム、淵上美喜ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 ビジネスデータ分析』秀和システム、上田太郎ほか『実践ワークショップ Excel徹底活用 多変量解析』秀和システム、等。

## 産業情報論

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 1年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義では、産業分野で情報通信技術や情報システム等がどのように活用され、産業構造や産業の仕組みにどのように影響を及ぼしているか、また、産業分野の情報化を支える情報通信や情報サービス等の情報産業の構造と技術動向、人材ニーズ、情報化の進展に伴い新たに重要性が増してきた情報モラルとプライバシー保護、知的所有権、セキュリティ管理等、産業の情報化及び情報の産業化に伴う現状や動向等について概観し、理解させる。

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 産業情報論で何を学ぶのか
- 2 週目 情報化の進展と社会の関わり
- 3 週目 情報化の進展と産業社会の構造変化
- 4 週目 卸・小売・物流業界の情報化（POSシステム、EOS、SCM等）
- 5 週目 金融・サービス業界の情報化（CRM、IR/PR等）
- 6 週目 建設業界の情報化（CAL S）
- 7 週目 製造業界の情報化（CAD/CAM、SCM、BTO、CPFR等）
- 8 週目 IT化と産業構造・企業経営の変革動向
- 9 週目 IT化と市場・消費者行動の変革動向（EC市場、BtoC、CtoC等）
- 10週目 情報産業の発展と社会（1）情報産業の構造と市場
- 11週目 情報産業の発展と社会（2）情報産業の技術と人材ニーズ
- 12週目 情報化と新たなビジネスモデル（特許、知的所有権等）
- 13週目 情報化基盤と新技術の動向（モバイル化、WEB化、セキュリティ・認証等）
- 14週目 情報化基盤と周辺環境の動向（情報モラル、プライバシー保護、セキュリティ管理等）
- 15週目 期末試験

### 【履修上の注意事項】

黒板への板書はできるだけせず、PCスライドやOHPを用いて講義を進める。重要な内容は各自メモすること。また、情報化の進展は秒進分歩。常に新聞記事に目を通し、情報関連の最新情報を収集すること。

### 【評価方法】

評価は出席、学期末試験、課題提出等を勘案して行う。

### 【テキスト】

砂川徹夫『産業情報論』、日本情報処理開発協会編『情報化白書』、新聞記事 等

### 【参考文献】

## 産業創造論

担当教員 城間 勇雄

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義では沖縄の産業創造を沖縄のおかれた地理的特性、歴史的な経緯等をふまえて、復帰後の沖縄振興開発計画及び沖縄振興計画、そして新しい振興計画の基礎として策定された21世紀ビジョンを論じる。その上で沖縄経済の成長のエンジンと目されている観光、情報・通信産業、そして医療・バイオ・健康関連産業、特別自由貿易地域、国際物流に進む。特に専門性の高い分野では外部から現職の担当者に講義をサポートしてもらい具体的な講義内容にする。また、途中3回の振り返り・学生同士の討論を挟み全体として「考える」ことを重視した講義内容にする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の目的 全体計画 講義概要 -沖縄についてどれだけ知っているか-
2	歴史の視点から見る沖縄の産業と沖縄に賦与する資源
3	沖縄振興開発計画（第1次～第3次）と沖縄振興計画及び21世紀ビジョンと新振興計画
4	振り返り討論Ⅰ ◎第1回課題提示
5	沖縄の基幹産業① -観光を切り口とした産業の創造-
6	沖縄の基幹産業② -情報産業の現状と未来展望-
7	オキナワ型産業の戦略的展開 -新しい切り口の製造業、健康・医療・バイオ関連産業etc
8	振り返り討論Ⅱ ◎第2回課題提示
9	産学官共同研究事業と沖縄TLO
10	道州制と沖縄経済
11	沖縄における国際航空物流 -アジアのハブ空港をめざして-
12	振り返り討論Ⅲ ◎第3回課題提示
13	沖縄の雇用と労働 ◎最終総括課題提示
14	産業創造論まとめ
15	予備日
16	(講義の進み具合によってカリキュラムを一部変更する場合があります)

## 【履修上の注意事項】

初回の講義で最終総括日に提出する総括レポートの課題を提示する。第2週目以降途中で3回の振り返り討論を挟み、この間に講義した内容について学生同士で議論し総括する。その際これまでに終えた講義に関するレポートの課題を提示する。それを翌週の講義開始前に提出のこと。その際、レポートと一緒にこれまでに終えた講義に対する感想、意見、要望を合わせて提出すること。

## 【評価方法】

試験は行わない。

- ・受講態度 4割（講義出席 6割未満は不可）
- ・途中3回の提示レポートの成績 3割
- ・最終総括レポートの成績 3割

## 【テキスト】

## 【参考文献】

## 産業ネットワーク論

担当教員 當銘 栄一

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

ネットワークングにより経済主体は、時間、空間を克服し、遠隔地の他者との交流、調整が出来る。ネットワークの効率という情報化社会のメリットを駆使すれば資本、経営の規模を問わないビジネスが展開できる。ネットワークは大きな組織に組み込まれることなく、数の力が得られ、お互いに違うもの同士を引き合わせ、それぞれがお互いの知識や技術を補完することで一人ずつでは出来ないことを可能にする。産業発展におけるネットワークの役割について理論と事例をもとに楽しい講義したい。

### 【授業の展開計画】

- 1週目 ネットワークの概念規定
- 2週目 ネットワークの効率
- 3週目 経済発展とネットワーク
- 4週目 市場と組織、中間組織
- 5週目 ネットワークと取引コスト
- 6週目 ネットワークの形成理由と類型
- 7週目 ネットワークとイノベーション
- 8週目 分業ネットワークと企業発展
- 9週目 台湾の企業成長とネットワーク
- 10週目 台湾中小企業の分業システム ー外包制度と企業成長ー
- 11週目 台湾の企業適応とネットワーク
- 12週目 日本の下請け制度とネットワーク
- 13週目 日本企業成長とネットワーク
- 14週目 沖縄経済とネットワーク ー島嶼経済におけるネットワークの意義ー
- 15週目 ネットワークを土台にした産業 ー沖縄の情報金融特区の事例ー

### 【履修上の注意事項】

講義は用語や手法、理論を積み上げていく、積み木のような構成になっているので休まないこと。

### 【評価方法】

期末テストを中心に評価するが、適宜小テストやレポートを課して総合的に評価する。

### 【テキスト】

一つのテキストを講義する手法はとらず、適宜参考資料を提供しつつ、講義する。

### 【参考文献】

(1) 南部鶴彦他「ネットワーク産業の展望」日本評論社、(2) 辻正次他「ネットワーク未来」日本評論社、(3) 安田雪「ネットワーク分析」ワードマップ、(4) 富川盛武「台湾の企業成長とネットワーク」白桃書房

## 産業連関論

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

「〇〇の経済効果、経済波及効果」などマスコミでよく登場する言葉であるが、これらの計算には産業連関表を用いられている。産業連関表を用いた分析である産業連関分析は、経済波及効果に限らずさまざまな分析に用いられる有用な手法である。

この講義では、産業連関表や産業連関分析の一部について解説し、実際に統計データと表計算ソフトを用いて産業連関分析の実例を紹介し、実際統計データを用いて応用、分析を行えることを目標とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	産業連関分析の基本①：産業連関表について、基本取引表
3	産業連関分析の基本②：投入係数表、自給率など
4	行列①：行列、逆行列の概念
5	行列②：表計算ソフトによる計算
6	産業連関分析の基本③：逆行列係数表
7	産業連関分析の基本④：付帯表
8	産業連関分析の応用①：経済波及効果
9	直接効果の計算①：具体事例
10	直接効果の計算②：社会調査、アンケート調査など
11	産業連関分析の応用②：表計算ソフトによる計算
12	産業連関分析の応用③：経済波及効果の計算
13	産業連関分析の応用④：価格波及分析
14	演習①：経済波及効果
15	演習②：価格波及分析
16	総括

## 【履修上の注意事項】

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある。

数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

## 【評価方法】

授業態度・課題・レポートの3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

## 【テキスト】

安田秀穂『自治体の経済波及効果の算出 パソコンでできる産業連関分析』学陽書房2008年

## 【参考文献】

藤川清史『産業連関分析入門ExcelとVBAでらくらくIO入門』日本評論社2005年

土居英二編『はじめよう 観光地づくりの政策評価と統計分析—熱海市と静岡県における新公共経営(NPM)の実践』日本評論社2009年

## 情報化と法

担当教員 有賀 俊二

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

インターネットに代表されるコンピュータ・ネットワークの急速な発達、今日の経済社会の情報化を益々加速させ、大きな変化をもたらしている。このような急速な情報化に伴う経済社会の変化に対して法的な対応の問題や情報モラルの問題が鮮明となってきている。本講義では、情報化と法についての理解を深めるために、情報化の進展に伴い注目されている知的財産権やプライバシー保護など様々な法的問題とモラルの問題について取り上げ、これらインターネット社会の問題への対応及びモラルのあり方について検討していく。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	情報化と法との関わり
3	情報化と知的財産権（1）
4	情報化と知的財産権（2）
5	コンピュータ・プログラムの法的保護
6	表示の法的保護
7	営業秘密の法的保護
8	企業情報開示の問題
9	情報公開制度
10	個人情報保護
11	電子商取引に関する問題
12	製造物責任と情報提供
13	情報モラルとサイバー犯罪
14	情報化と法的問題の事例 1
15	情報化と法的問題の事例 2
16	期末試験

### 【履修上の注意事項】

- (1) 講義では、基本的な法令について説明するので、インターネット上などで関連法令条文を確認すること。
- (2) 他の法律関連科目を履修することが望ましい。

### 【評価方法】

成績は、課題レポートを重視し、期末試験、出席に基づいて総合的に評価する。

### 【テキスト】

毎回、テキストを準備する。

### 【参考文献】

## 情報処理概論

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義では、情報処理技術の基礎的な内容を幅広く取り扱う。主な項目としては、まず、情報処理の概念とコンピュータの発展の過程について学び、次に、コンピュータのハードウェアおよびソフトウェアの構造と動作原理を理解する。さらに、ネットワークシステムと通信技術のデータベースシステムにおけるデータの基本構造とファイル編成法等を通して利用形態から見たコンピュータシステム全般に関する理解を深める。また、情報処理システムが社会に与えた功罪を整理しながら、セキュリティシステムや暗号化技術についても概説する。

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 情報処理の概念とコンピュータ
- 2 週目 コンピュータの歴史
- 3 週目 コンピュータの基本表現：単位、文字コード、N進数、アナログとデジタル
- 4 週目 コンピュータの原理：論理回路
- 5 週目 ハードウェア(1)：CPUのしくみと役割
- 6 週目 ハードウェア(2)：記憶装置と記憶メディア
- 7 週目 ハードウェア(3)：入出力装置と入出力インターフェイス
- 8 週目 ソフトウェア(1)：オペレーティングシステム
- 9 週目 ソフトウェア(2)：ビジネスアプリケーション、フリーウェア
- 10 週目 コンピュータの利用形態：集中処理、分散処理等
- 11 週目 ネットワークシステムと通信技術
- 12 週目 データベースシステム(1)：データ構造とファイル編成法
- 13 週目 データベースシステム(2)：リレーショナルデータベースとSQL
- 14 週目 アルゴリズムの基本とシステム開発の手順
- 15 週目 セキュリティシステムと暗号化技術
- 16 週目 期末試験

### 【履修上の注意事項】

レポート作成等においてインターネットによる情報検索技術を要するため、基本的な情報処理技術の修得が必須となる。

### 【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、レポート(4回以上)、期末試験に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

### 【テキスト】

テキストおよび資料については毎回配布する。

### 【参考文献】

金谷信之：『三訂版 情報処理論』晃洋書房・ライオン K. スティーブンス他：『SQLプログラミング入門』ソフトバンク・安藤明文：『情報処理入門 三訂版(情報処理テキストシリーズ)』実教出版

## 情報処理システム演習

担当教員 又吉 光邦

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本授業では、情報処理システム開発の最先端である、携帯端末のソフト開発を通してシステム開発を具体的に学んでいくことを狙いとする。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	Android開発環境について (JDK, Eclipse)
2	APP Inventor開発環境について
3	ボタンの配置
4	動画再生アプリの製作、動画のダウンロードと適正ファイルの取得方法
5	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法
6	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法
7	しゃべるAndroidアプリの作成 I
8	しゃべるAndroidアプリの作成 II
9	タイマー処理を使ったアプリの作成 I
10	タイマー処理を使ったアプリの作成 II (ゲームの作成 I)
11	タイマー処理を使ったアプリの作成 III (ゲーム感覚のアラーム時計の作成)
12	シューティングゲームアプリの作成 I (スプライトの利用)
13	シューティングゲームアプリの作成 II (タイマー処理の組み込み)
14	緯度経度センサーを使ったアプリの製作 I
15	緯度経度センサーを使ったアプリの製作 II
16	まとめ

### 【履修上の注意事項】

APP InventorによるAndroid用のシステム開発です。

センサーを使ったAndroidアプリは、実機を用いて実施テストをしてもらう予定です。

### 【評価方法】

授業態度、開発したシステムの提出。

### 【テキスト】

APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、電子掲示板よりダウンロード)で行います。また、それに伴い、講義内容に変更のある場合があります。

### 【参考文献】

Android関連書籍。関連Webページ。

## 情報処理システム論

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

身近なコンピュータシステムを例に挙げながら、コンピュータシステムの定義からシステム開発工程までを解説する。また、開発の現場で必須となりつつあるUMLとJavaを用いた開発を通して実際の開発過程を理解することを目指す。

### 【授業の展開計画】

前半ではシステム開発の手順を解説し、後半は「小規模な店舗における販売・在庫管理システム」の設計・開発の実現例を解説する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・コンピュータシステムとは
2	コンピュータシステムとは
3	システムの開発工程
4	システム開発の実際（上流工程）
5	システム開発の実際（上流工程）
6	システム開発の実際（下流工程）
7	システム開発の実際（下流工程）
8	要件定義の記述
9	要件定義の記述
10	システムの内部構造と機能の定義
11	システムの内部構造と機能の定義
12	プログラムの設計
13	プログラムの設計
14	プログラムの実装と試験
15	プログラムの実装と試験
16	総合演習・期末試験

### 【履修上の注意事項】

プログラミングⅠ・Ⅱ（プログラミング演習）を履修済みであることが望ましい。

### 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

### 【テキスト】

松永 俊雄 他「コンピュータシステム開発入門」オーム社（2008）

### 【参考文献】

Scott W. Ambler 他「オブジェクト開発の神髄」日経BP出版センター（2005）  
 オージス総研オブジェクトの広場編集部「その場でつかえるしっかり学べるUML 2.0」秀和システム（2006）  
 桐越 信一他「UMLモデリング教科書 UMLモデリングL2 第2版」翔泳社（2008）

## 情報数学

担当教員 平良 直之

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義では、情報数学 I に引き続き情報処理に必要な基本的な数学を学ぶ。具体的には、集合と論理、 $n$ 進数、情報科学分野で必須となるベクトルと行列について学習する。なお、講義の方針は、情報数学 I と同様に、数学の概念が情報処理の場でどのように生かされるかの解説を主に行い、練習問題をなるべく多くこなすことで数学的センスが身に付けられるよう配慮する。

### 【授業の展開計画】

本講義では基本的に次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	集合と論理 (i)
2	集合と論理 (ii)
3	集合と論理 (iii)
4	$n$ 進数 (i)
5	$n$ 進数 (ii)
6	$n$ 進数 (iii)
7	$n$ 進数 (iv)
8	ベクトル (i)
9	ベクトル (ii)
10	ベクトル (iii)
11	行列 (i)
12	行列 (ii)
13	行列の応用 (i)
14	行列の応用 (ii)
15	行列の応用 (iii)
16	

### 【履修上の注意事項】

①本講義は、オペレーションズ・リサーチ、意思決定論、知的情報処理などに関連する基礎科目であるため、情報系科

目の受講を希望する学生は履修することが望ましい。

②出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

③第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

### 【評価方法】

試験結果、出席状況、レポートにより評価する。

### 【テキスト】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

### 【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します。）

## 情報通信ネットワーク論

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

インターネットや携帯電話の普及により情報通信ネットワークは私たちの生活に欠かすことができないものとなりました。また、ネットワークの存在を前提とした各種社会サービスの普及により、企業や行政が正常に機能するためには必須なものとなりました。本講義では、その情報通信ネットワークを利用するだけでなく、構築・運用するのに必要な知識の習得を目指します。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・情報ネットワークの歴史
2	情報ネットワークのプロトコル
3	データリンク層プロトコル
4	ネットワーク層プロトコル
5	トランスポート層プロトコル
6	アプリケーション層プロトコル
7	トラヒック理論の基礎
8	ネットワーク層プロトコルの実際
9	コンテンツ配信
10	アクセス系ネットワーク
11	IP電話
12	セキュリティ
13	エンタープライズネットワーク
14	NGN (次世代ネットワーク)
15	総まとめ
16	総合演習・期末試験

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。調査課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

### 【テキスト】

池田博昌, 山本幹「情報ネットワーク工学」(2008)

### 【参考文献】

アंक「インターネット技術の絵本」翔泳社(2009)

アंक「TCP/IPの絵本」翔泳社(2003)

山内雪路「よくわかる情報通信ネットワーク」東京電機大学出版局(2010)

## 情報と職業

担当教員 岡田 良

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

沖縄県は観光やIT産業を中心に自立的経済発展を目指している。とりわけここ10年で様変わりした同業界（特にIT産業）の変遷と地域におけるその発展要因を学ぶとともに、現在および近い将来の業界トレンドを理解する。□ また、これらの職種に関する理解を深め以て各人の卒業前就職活動もしくは卒業後の就労に際し、高いモチベーションをもつことを目的としている。よって本講義では学術的理論習得を目指すのではなく、より現実的・具体的な職種の現状を正しく理解することをねらいとしている。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	本講義の目的と概要をガイダンス。
2	講義スケジュール説明後、県内産業の動向について簡単に解説します。
3	さまざまな産業の動向やその職種について理解を深めます。また企業活動そのものを理解します。
4	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解します（その1）。
5	多種多様化するIT産業の職種について正しく理解します（その2）。
6	沖縄県および自治体の政策を学びながら、IT業界の変遷と業界の動向について講義します。
7	過去10年を振り返りながら、近い将来におけるIT業界の動向を模索します。
8	講師自身の職務（IM）や実践に触れながら地域振興の必要性和理解を深めます。
9	企業成長→事業創成⇒産業創造への発展要因を解説する。
10	国・地方行政またはその職員が産業振興に果たす役割を解説する。
11	これからの大学の在り方と学生に求められるものについて論じる。
12	企業では内定者を決めるまでにどのような過程を経ているのかを知る。
13	就職活動中または活動前の学生に高いモチベーションをもつための講義を実施する（その1）。
14	就職活動中または活動前の学生に高いモチベーションをもつための講義を実施する（その2）。
15	講義のまとめ
16	学期末試験

### 【履修上の注意事項】

とくに就職活動前の学生の受講を希望します。就職活動中の学生についても自身の目指す職業像を正しく理解したいものの受講は歓迎いたします。

### 【評価方法】

出席状況および学期末試験の結果を総合的に判断し評価します。なお、学期末試験時にはノート、書籍等参考になるもの持ち込みは可とします。また、やむ負えない事情で試験当日欠席した者についてはメールによるきめられた期限内での提出を認めることとします。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

## 情報マネジメント演習

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習では、情報化先進企業の情報管理・活用事例等を通して、情報化の目的、運用管理体制、導入し活用されている情報システム、経営者意識や情報化人材の育成、情報セキュリティ等多角的視点での情報管理の評価分析視点を理解させる。そして、その理解を踏まえて、2～4人のグループ単位で「県内組織体（企業等）の情報管理実態・意向調査」の課題を与え、分析報告と発表等を行うことでより情報管理に対する理解を深める。

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 情報特性と情報管理
- 2 週目 情報化レベルの把握
- 3 週目 情報システムの構築の基本ステップ
- 4 週目 適用業務別システムの概要と特徴
- 5 週目 情報化先進企業の事例研究 1
- 6 週目 情報化先進企業の事例研究 2
- 7 週目 情報化先進企業の事例研究 3
- 8 週目 情報化先進企業の事例研究 4
- 9 週目 情報化先進企業の事例研究 5
- 10 週目 各グループ調査企業の事例発表 1
- 11 週目 各グループ調査企業の事例発表 2
- 12 週目 各グループ調査企業の事例発表 3
- 13 週目 各グループ調査企業の事例発表 4
- 14 週目 各グループ調査企業の事例発表 5
- 15 週目 期末試験

### 【履修上の注意事項】

前期開講の「情報マネジメント論」受講者を優先する。また、受講者全員に、2～4人のグループ単位で「企業における情報管理実態・意向調査」に関する課題を与え、レポート提出、パワーポイントを利用した発表を行う。

### 【評価方法】

評価は出席、課題提出、発表、学期末試験等を勘案して行う。

### 【テキスト】

砂川徹夫『情報マネジメント論講義テキスト』

### 【参考文献】

プリント配布や必要に応じて参考文献等を紹介する。

## 情報マネジメント論

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義では、第4の経営資源としての”情報”の特質や企業経営等における情報の役割を明らかにし、情報を効果的・効率的に運用管理する方式としての情報管理の概念や意義、情報管理システムの構成要素である情報処理システム、情報源（データベース）、情報化人材、運営システム等について体系的に理解させる。

特に、情報ネットワークやマルチメディア環境の進展を踏まえて、インターネット活用と情報モラル、デジタルコンテンツと知的財産権、個人情報の保護、情報セキュリティ等の最新動向について理解を深める。

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 情報技術の進展と情報管理の現状
- 2 週目 情報管理の情報概念と特性
- 3 週目 情報価値とナレッジマネジメント
- 4 週目 情報行動と意思決定
- 5 週目 情報管理の基本プロセスとマネジメントの概念
- 6 週目 情報の収集と生成のマネジメント
- 7 週目 情報の蓄積・分析のマネジメント
- 8 週目 情報コミュニケーションのマネジメント
- 9 週目 情報マネジメントと情報システム
- 10 週目 情報マネジメントと人材
- 11 週目 情報マネジメントと組織
- 12 週目 情報共有と情報モラル、プライバシー保護
- 13 週目 デジタルコンテンツと知的財産権
- 14 週目 情報ネットワークとセキュリティ管理
- 15 週目 情報マネジメント分野の最新動向

### 【履修上の注意事項】

情報処理概論や産業情報論、産業情報分析等を受講していることが望ましい

### 【評価方法】

評価は出席、学期末試験、課題提出等を勘案して行う。

### 【テキスト】

砂川徹夫『情報マネジメント論講義テキスト』

### 【参考文献】

講義の理解度を考慮して授業中に参考文献を提示するかコピーを配布する。

## 情報リテラシー演習

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講義では、ウェブサイト構築（HTML・CSS）およびフラッシュを用いたアニメーション技術を学ぶ。まず最初にテキストエディタで、HTMLのタグを入力して基本的なウェブサイトの作成を行う。さらにスタイルシートを利用したデザイン手法、画像や音声など各種フォーマットの特性を学び、最後にアニメーション作成ソフトウェア（Flash）を用いて簡単なアニメーションの制作を行う。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・登録調整
2	HTMLの基本・テキストエディタの使用法
3	文字のデザイン・カラーコード
4	リンク
5	背景と罫線
6	画像レイアウト・グラフィックソフトの使用法
7	横幅と配置のアレンジ
8	テーブル
9	フォーム
10	Flashの基本
11	Flashのサンプル例
12	FlashによるデザインFlashを用いたオープニングアニメーション
13	応用例と上級テクニック
14	課題レポートプレゼン1
15	課題レポートプレゼン2
16	総括

### 【履修上の注意事項】

共通科目の情報処理基礎を受講済みの学生もしくはそれと同等の技術（ワープロ・表計算ソフトの基礎知識）がある者のみを登録する。これらの技術がない場合には情報処理基礎を履修してから受講すること。内容については毎回の講義の積み重ねになるため、遅刻・欠席は認めない。初回の講義に欠席する者は登録を取り消す（欠席する場合には事前に連絡するように）。教室収容定員の関係上、産業情報学科1年次のみ登録を受け付け、2年次以上の受講希望者は第1回目の講義時に登録する。

### 【評価方法】

評価は出席状況（50点）と2回の課題レポートもしくは試験（150点）の合計点数より決定する。

### 【テキスト】

講義時に指定する。

### 【参考文献】

講義時に紹介する。

## 情報リテラシー演習

担当教員 小渡 悟

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講義では、ウェブサイト構築のための技術について、実際にプログラミングを行いながら習得する。まず、基礎的なWebサイトの構築方法であるHTMLについて学ぶ。次に、デザインを構成するためのCSS (Cascading Style Sheets) について学ぶ。そして、アニメーションを作成するためのFlashについて学ぶ。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	テキストエディタの使用方法, HTML言語の基本
3	文字のデザイン, カラーコード
4	リンクの設定
5	背景と罫線の設定
6	グラフィックソフトの使用方法, 画像レイアウト
7	ページ設定, 配置
8	テーブル作成
9	フォーム作成
10	Flashの基本
11	Flashによるアニメーション
12	応用テクニック
13	課題発表①
14	課題発表②
15	課題発表③
16	課題提出

### 【履修上の注意事項】

- ・ 共通科目の「情報処理基礎」の単位取得者、または同等の知識・技術を持つ者のみ登録を許可する
- ・ 第1回目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない
- ・ 演習講義のため、原則として遅刻・欠席は厳禁
- ・ 毎講義の最後に確認問題を課する

### 【評価方法】

確認問題30点 (2点×15回), 課題発表70点の合計100点満点において  
80点以上「優」, 70~79点「良」, 60~69点「可」, 60点未満「不可」で判定する。

### 【テキスト】

プリントを配付する (講義前にプリントアウトする)

### 【参考文献】

- ・ HTML/XHTML&スタイルシートレッスンブック (ソシム社出版, エビスコム著)
- ・ インターネット上のWebページ作成ヒント集

## 専門演習基礎

担当教員 富川 盛武

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

経済学の知識を基に、社会で起こっている不況・失業、金融危機、財政危機、経済の自由化等の事象・現象をわかりやすく解説したい。テーマを決めて、資料を収集、分析し、プレゼンを通じてゼミを進める。

金融、流通、サービス業等への就職を希望する学生を歓迎する。

「楽しくなければゼミではない」をモットーに進めていく。就職に関連した企業訪問も実施する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済学の基礎知識
2	経済学を通じて、社会を読み解く
3	テーマ（1）に関して資料を収集、分析（各自）
4	テーマ（1）に関して資料を収集、分析（各自）
5	発表とディスカッション
6	テーマ（2）に関して資料を収集、分析（各自）
7	テーマ（2）に関して資料を収集、分析（各自）
8	発表とディスカッション
9	テーマ（3）に関して資料を収集、分析（各自）
10	テーマ（3）に関して資料を収集、分析（各自）
11	発表とディスカッション
12	テーマ（4）に関して資料の収集、分析（各自）
13	テーマ（4）に関して資料の収集、分析（各自）
14	発表とディスカッション
15	ディベート1
16	ディベート2

### 【履修上の注意事項】

自分で調べて、まとめ、発表するので、主体性が重要となる。

今、社会から最も求められている資質の一つは情報を収集、分析し、考える理解力とどうすれば改善できるかという「問題解決能力」そして対話し発信する「コミュニケーション能力」である。

これらを一から教えていきたい。

### 【評価方法】

情報収集、分析、編集したレポートとプレゼン等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

テーマに沿って適宜紹介する。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 専門演習基礎

担当教員 平良 直之

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

計算機の高機能低価格化およびインターネットの普及にともない、業務の効率化や顧客サービスの充実を実現する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものとなっている。また、近年の複雑化した経済状況を分析する上でも情報処理技術は必須だと言える。本演習では、受講生がシステム開発および情報処理に必要な基本技能の習得を目的とする。

### 【授業の展開計画】

専門演習基礎では、システム設計、プログラミング、情報処理に関する基本的なスキルの習得を目指す。そのため、テキストの解説だけでなく受講者に多くの演習課題を課す。また、課題成果の報告（設計内容、コーディング内容）を義務づけ、資料作成・説明力といったプレゼンテーションに必要な技術も学ぶ。

### 【履修上の注意事項】

- ①プログラミングⅡ、ウェブプログラミングおよびオペレーションズ・リサーチは本演習の関連講義であるため、これらの科目の単位を取得した学生を優先する。
- ②本演習では、受講生に大して事前に課題を与え、その報告をふまえた上で講義をすすめていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、その事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

### 【評価方法】

出席状況 4割、課題提出 3割、成果報告 3割とする。但し、講義の3分の1以上欠席したものは原則不可とする。

### 【テキスト】

未定（第一回目の講義で連絡します。）

### 【参考文献】

(1) 高橋麻奈 著「やさしいJava」, ソフトバンク (2) 廣川・桑村 著「PHP5徹底攻略」, ソフトバンククリエイティブ

## 専門演習基礎

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本ゼミの位置づけは、卒業研究に向けた導入部分とする。ゼミテーマとしては、大別して下記する2つとする。

- ①マーケティングデータを用いた顧客満足に関する研究
- ②情報システムを用いた支援ツールの構築と評価に関する研究

本ゼミでは、データを読み取る力、情報の生成および伝達するスキルを身につけることを目的とする。したがって、間違えること、できないことを恐れずにチャレンジすることを重点におくこと。また、産業情報の観点から、あらゆる角度からの視点を持ってデータに接することを目指す。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	ゼミ活動について
3	データと情報
4	データの処理方法①
5	データの処理方法②
6	情報の生成方法①
7	情報の生成方法②
8	情報の生成方法③
9	結果と考察①
10	結果と考察②
11	結果と考察③
12	データ、情報の表現方法①
13	データ、情報の表現方法②
14	プレゼン発表①
15	プレゼン発表②
16	課題提出

### 【履修上の注意事項】

- ・ゼミ形式のため、原則として欠席及び遅刻は厳禁
- ・欠席をする場合は、事前に必ず連絡をすること
- ・1/3以上の欠席の場合は、単位を認めない
- ・各回の最後に、確認課題を課する

### 【評価方法】

ゼミ活動における意欲、理解度、出席率を総合して、「優」、「可」、「不可」の3段階で評価する。

### 【テキスト】

プリントを配付する（講義前にプリントアウトすること）

### 【参考文献】

特に定めない。適宜示します。

## 専門演習基礎

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

Processing (Javaベースのオープンソース統合環境) によるプログラミングを通して問題解決能力の養成、基本的な情報技術に関する知識の習得を目指す。また、プログラミングのみならずフィジカルコンピューティング (マウスやディスプレイ、キーボードなどの既存のコンピュータの入出力だけではなく、センサ・アクチュエータなどを使ってコンピュータと人間とのコミュニケーションを実現するという考え方) についても検討を行っていく。

### 【授業の展開計画】

Processingプログラミングのみならずフィジカルコンピューティング (マウスやディスプレイ、キーボードなどの既存のコンピュータの入出力だけではなく、センサ・アクチュエータなどを使ってコンピュータと人間とのコミュニケーションを実現するという考え方) についても検討を行っていく。演習の最後に専門演習 I に向けた個別テーマを決定するので、それまでに基礎知識を身につけて興味のある個別テーマを自ら決定する。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	Processingプログラミングの基礎 (1)
3	Processingプログラミングの基礎 (2)
4	Processingプログラミングの基礎 (3)
5	2Dグラフィック (1)
6	2Dグラフィック (2)
7	3Dグラフィック
8	イベント処理
9	ライブラリの活用 (1)
10	ライブラリの活用 (2)
11	Processingと外部機器の接続
12	個人製作によるシステムの企画・開発 (1)
13	個人製作によるシステムの企画・開発 (2)
14	個人製作によるシステムの企画・開発 (3)
15	最終発表会 (1)
16	最終発表会 (2)

### 【履修上の注意事項】

原則として皆出席・無遅刻であること

演習時間以外にも課外活動 (情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等) を課すので、それに対応できるようにすること

情報処理関連試験の取得に積極的に取り組むこと

### 【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

### 【テキスト】

田原 淳一郎「Processingプログラミング入門—Javaベースのオープンソース統合開発環境」カットシステム (2010)

### 【参考文献】

橋本直「ARプログラミング Processingでつくる拡張現実感のレシピ」オーム社 (2012)

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション (2011)

三井 和男「デザイン言語 Processing入門 - 楽しく学ぶコンピューショナルデザイン」森北出版 (2011)

## 専門演習基礎

担当教員 大井 肇

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

開講当初はハードウェア、ソフトウェアに関する基本的な知識および技術の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格の取得を義務付ける。また専門演習Ⅰは専門演習Ⅱの基盤となる演習科目であることから、こうした情報処理に関する基本的な知識の上に、システム構築を念頭においた学習が必要となる。よって、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発に必須となるロジカルな思考法、豊かな発想力、バグを追求する忍耐力などの精神面の養成も大切な目的となる。

### 【授業の展開計画】

- 1週目 ガイダンス
- 2週目 コンピュータ・グラフィックス①（基礎的な技術）
- 3週目 コンピュータ・グラフィックス②（企業システムへの応用）
- 4週目 マルチメディア①（基礎的な技術）
- 5週目 マルチメディア②（企業システムへの応用）
- 6週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識①
- 7週目 システム部門で必要とされるハードウェアの知識②
- 8週目 データベース・システム①（基礎的な技術）
- 9週目 データベース・システム②（企業システムにおけるデータベースの役割）
- 10週目 データベース・システムの設計
- 11週目 データベース・プログラミング①
- 12週目 データベース・プログラミング②
- 13週目 システム部門で必要とされる情報セキュリティの知識
- 14週目 企業内ネットワーク・システムの知識
- 15週目 企業内情報システムの問題解決技法
- 16週目 データの集計と統計処理技法

### 【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「情報処理概論」、「プログラミング理論」の履修を条件とする。

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート（5回以上）、各種情報関連資格の取得状況に基づいて総合的に評価する。

### 【テキスト】

栢木 厚『栢木先生の初級シスアド教室—イメージ&クラブ—方式でよくわかる』技術評論社・栢木 厚『1週間で分かる初級シスアド集中ゼミ』日本経済新聞社・河合 昭男他『明解UML—オブジェクト指向&モデリング入門』秀和システム

### 【参考文献】

トニー ブザン『人生に奇跡を起こすノート術—マインド・マップ放射思考』きこ書房・茂木 秀昭『ロジカル・シンキング入門』日経文庫、日本経済新聞社

## 専門演習基礎

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 2年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

情報システムを活用して、情報（データを含む）の収集、蓄積・検索、分析加工等の効果的な情報処理及び管理手法を学び、活用事例などを通して情報リテラシー能力を高めるとともに、実践的情報処理技能を養成する。併せて、OA・情報システム管理技術者としての専門資格取得を目指した自主学習を支援する。最終的には各自が自主的に取り組む卒業研究に向けた課題テーマの設定やテーマに関連する情報の収集・整理、研究計画書作成等を行ない、発表を行う。”

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ゼミのオリエンテーション
2	レポート・論文等文書の作成・表現技法等の演習
3	同上の課題処理
4	インターネットを活用した情報の収集、管理の演習
5	同上の課題処理
6	データ分析の基本指導
7	EXCELによるデータ分析演習
8	同上の課題処理
9	アンケート調査票の設計・作成
10	アンケート調査データの入力・クロス集計
11	アンケート集計データの分析
12	同上の課題処理
13	パソコンのハード・ソフト・ネットワーク等の組立・設定技法の実習
14	画像・映像データの編集・活用事例研究
15	研究計画書の作成指導
16	同上の課題処理

### 【履修上の注意事項】

情報リテラシー演習、プログラミング、情報数学、産業情報分析Ⅰ等を履修していることが望ましい。

### 【評価方法】

課題や研究計画書等の提出、ゼミへの出席状況、資格取得への取り組み等を考慮して総合的に評価する。

### 【テキスト】

“関連資料は、その都度配布する。その他、各ソフトのマニュアルや操作ガイド<Help機能>のほか、発表者作成資料等を使用して演習を進める。”

### 【参考文献】

参考文献は、必要に応じてその都度、紹介する

## 専門演習基礎

担当教員 田口 順等

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

大学における講義はレポート・論文の作成やプレゼンテーション（発表）など自分の意見や主張を述べ、文章に表すなど高校までの授業や勉強方法とは異なる方法で課題や試験を回答・提出しなければならない。そこでこの講義では、情報の収集、レポートの作成方法や発表についての技術・方法について紹介し、実際に練習・演習を行う。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	文章の作成①
3	文章の作成②
4	情報・文献の収集②
5	情報の加工と整理、分析①
6	情報の加工と整理、分析②
7	情報の加工と整理、分析③
8	レポート・論文の作成①
9	レポート・論文の作成①
10	プレゼンテーションの方法①
11	プレゼンテーションの方法②
12	プレゼンテーションの方法③
13	各個人による発表
14	各個人による発表
15	各個人による発表
16	まとめ

### 【履修上の注意事項】

発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。  
レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。  
授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

### 【評価方法】

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

### 【参考文献】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

## 専門演習基礎

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習では、金融経済論の学習および研究を行う。専門演習基礎では、計量経済分析・経済理論モデルといった、金融経済論の研究に必要な分析方法の学習をはじめ。具体的にはMicrosoft Excelを利用した経済分析の学習をさせている。ゼミ生には、Excelの使いやすさに早めに気づき、分析方法の理解や計算結果の解釈に努めてもらいたい。そのために、教材実習に止まらず、様々なデータを利用した応用学習も行う。なお、金融情報論 I・IIを必ず受講し、金融経済論の基礎知識を身につけておくこと。

### 【授業の展開計画】

- (1) 計量経済分析の基礎
- (2) Excelを利用した経済理論の学習
- (3) 分析のためのデータ収集
- (4) 計量経済分析と出力結果の解釈
- (5) 金融経済の基礎知識と計量経済分析

### 【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作そのものよりも、計算結果を理解するための学習が多い。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

### 【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して開設する。

### 【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。
- [3] 伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス(新版)』有斐閣、2006年。

## 専門演習基礎

担当教員 兪 炳強

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

今日、ITの発展に伴い、いわゆる「情報の産業化」が進み、新たなビジネスや産業が創出されている。同時に既存産業におけるITの活用により、いわゆる「産業の情報化」が進み、既存産業の効率化や発展が図られている。本演習では、インターネットや表計算ソフトなどを活用しながら、経済・産業に関するデータや情報の収集方法および分析方法を学習し、情報の収集力、問題の発見力・分析力を高めることを目標とする。

### 【授業の展開計画】

インターネットを活用した産業・経済データや情報の収集方法を学習しながら、Excelなどの統計ソフトを用いて産業・経済データや情報のビジュアル的分析手法および基礎的統計分析手法を学習する。また、後半には3年次の専門演習Ⅰに向けて、個別研究分野を設定するための文献調査・学習も併せて行う。

なお、詳細なスケジュールについては初回演習時に決める。

### 【履修上の注意事項】

詳細については第一回の演習の時間に説明する。

### 【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

初回講義時に紹介する。また演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

### 【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

## 専門演習基礎

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

演習の目的は、地域の振興で財政がどのように関わっていくのか、どのような役割をはたしたほうが望ましいのかを研究することである。沖縄県は、地域経済と自治体の財政の関係が深い。まず、わが国経済の動向を学習した後、沖縄県経済について学習する。次に、沖縄の振興と財政の役割について検討していく。

### 【授業の展開計画】

- 第1回 専門演習基礎のオリエンテーション
- 第2回 日本経済の概要①
- 第3回 日本経済の概要②
- 第4回 日本経済の概要③
- 第5回 沖縄県経済の概要①
- 第6回 沖縄県経済の概要②
- 第7回 沖縄県経済の概要③
- 第8回 地域振興と財政①
- 第9回 地域振興と財政②
- 第10回 地域振興と財政③
- 第11回 沖縄振興計画①
- 第12回 沖縄振興計画②
- 第13回 沖縄振興計画③
- 第14回 専門演習基礎の総括①
- 第15回 専門演習基礎の総括②

### 【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項をお知らせします。

### 【評価方法】

演習への出席状況、課題の提出状況、演習における取組み、ディスカッションにおける参加の姿勢等、総合的に評価します。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

## 専門演習基礎

担当教員 安里 肇

対象学年 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本講義は、4年次の卒業論文制作に向けての第1段階となる。まず、情報技術全般に関する基本的な知識を学び、資格取得に向けた対策を行う。目標とする資格としては、「基本情報技術者試験」を設定する。この試験と連動した形で進め、基本的な情報技術を身につける。また、上級情報処理士過程科目の「コンピュータ概論」は受講していること。講義後半では、3年次の専門演習に向けた個別テーマを決定するのでそれまでに基礎知識を身につけて興味のある個別テーマを自ら探すようにして努力して欲しい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	基本情報技術者試験対策 1
3	基本情報技術者試験対策 2
4	基本情報技術者試験対策 3
5	システム設計とは？
6	プログラミングの課題 1
7	プログラミングの課題 2
8	プログラミングの課題 3
9	プログラミングの課題 4
10	Flashによるアニメーション制作 1
11	Flashによるアニメーション制作 2
12	Flashによるアニメーション制作 3
13	ActionScriptによる制御 1
14	ActionScriptによる制御 2
15	個別テーマ提案プレゼン 1
16	個別テーマ提案プレゼン 2

### 【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、情報処理関連試験の受験を義務づける。また、演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報関連企業の現場訪問、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。授業の展開計画については、年度により内容が変わる場合がある。基本的に受講生からの要望に沿って技術系の内容を取り入れる。

### 【評価方法】

評価は出席状況や課題レポート・プレゼンにより総合的に判断する。

### 【テキスト】

開講時に指定する。

### 【参考文献】

開講時に指定する。

## 専門演習 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習 I では、金融経済を対象にした卒業研究に着手する。ゼミ生は、まず研究テーマを選択し、研究対象のデータ収集を行う。同時に、Microsoft Excelを利用した分析手法の何が各自のテーマに適しているのか考える。適切な分析手法を選択するには、教材の内容通りにExcelを操作するに止まらず、様々なデータで実習した経験が必要になる。なお、ファイナンシャルエコノミクス I を必ず受講し、金融経済に関するExcel計算の手法を数多く身につけておくこと。

### 【授業の展開計画】

- (1) 研究テーマの選択：テーマの論拠となる文章・資料を探す。
- (2) 研究対象のデータを特定し、収集する。
- (3) 収集したデータを加工し、受領を作成する。
- (4) 分析ツールの選択：Excelを利用した経済分析の何が適しているのか考える。
- (5) 分析ツールの習得：出力結果を理解する方法を学ぶ。

### 【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作そのものではなく、計算結果の理解が要求される。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

### 【評価方法】

出席、理解状況等により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。

### 【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川栄次・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。

## 専門演習 I

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義は、卒業研究に向けた導入部分の応用編と位置づける。

専門演習基礎で行ったデータ分析をもとに、データ解析を通してデータおよび情報の評価方法について学ぶ。そして、卒業論文において考察を論理的に展開できるようになることを目指す。

講義が終了する頃には、卒業論文の仮テーマを決定し、夏期休業中のゼミ合宿において卒業研究テーマについての発表を行う。

### 【授業の展開計画】

- ・ゼミ形式で実施するため、全員参加のこと
- ・あらゆる角度からの視点から、データ解析を行うこと
- ・何事にもチャレンジすることに重点をおくこと

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	データとデータ分析
3	データの取捨選択
4	データ解析①
5	データ解析②
6	データ解析③
7	データ解析と統計的手法
8	統計的手法①
9	統計的手法②
10	統計的手法③
11	統計的手法④
12	統計的手法⑤
13	データ解析と考察
14	考察の書き方①
15	考察の書き方②
16	課題提出

### 【履修上の注意事項】

- ・ゼミ形式のため、原則として欠席、遅刻は厳禁
- ・欠席をする場合は、事前に必ず連絡をすること
- ・1/3以上の欠席は、単位を認めない
- ・各回の最後に、確認課題を課する

### 【評価方法】

ゼミ活動における意欲、理解度、出席率を総合して、「優」、「可」、「不可」の3段階で評価する

### 【テキスト】

プリントを配付する（講義前にプリントアウトすること）

### 【参考文献】

特に定めない。適宜示します。

## 専門演習 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

演習 I では、沖縄県の経済、振興について基本的な知識を学び、レポートをまとめ報告することを学習しました。演習 II では、各自でテーマをしばり、情報収集・整理・分析、論文作成、報告、質疑の能力をよりいっそう高めていきます。これは卒業論文演習で卒業論文をまとめる際の基本的な能力を身につけることとなります。

### 【授業の展開計画】

- (1) 沖縄県の経済①
- (2) 沖縄県の経済②
- (3) 沖縄振興計画① (21世紀プラン)
- (4) 沖縄振興計画② (21世紀プラン)
- (5) 沖縄振興計画③ (21世紀プラン)
- (6) レポート・論文計画の作成①
- (7) レポート・論文計画の作成②
- (8) レポート・論文計画の作成③
- (9) 情報収集と整理・分析①
- (10) 情報収集と整理・分析②
- (11) 論文計画のプレゼンテーション①
- (12) 論文計画のプレゼンテーション②
- (13) 論文計画のプレゼンテーション③
- (14) 論文計画のプレゼンテーション④
- (15) 論文計画のプレゼンテーション⑤
- (16) 演習 II の総括

### 【履修上の注意事項】

演習の時間に説明します。

### 【評価方法】

演習への出席状況、レポートの作成、報告を基に評価します。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

演習の時間に説明します。

## 専門演習 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的・地域発展を図るための諸方策を探究する。

### 【授業の展開計画】

二年次の専門演習基礎の学習成果を踏まえ、個別に設定した研究分野に関連した文献レビュー、およびデータや情報を収集し、多変量解析など統計的分析手法を学習しながら、分析結果の取り纏めやプレゼンテーションを行う。

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

出席、課題の提出、報告レポートの作成、プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

### 【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

## 専門演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

開講当初はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付ける。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、避けては通れないモノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたい。

卒業研究のテーマに関しては、個人の興味ある研究対象を優先的に割り当てるので、是非とも積極的な研究姿勢をみせてもらいたい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	研究資料の収集方法①
3	研究資料の収集方法②
4	研究資料の収集方法③
5	データの整理と解析手法①
6	データの整理と解析手法②
7	データの整理と解析手法③
8	資料に基づく調査結果報告①
9	資料に基づく調査結果報告②
10	資料に基づく調査結果報告③
11	資料に基づく調査結果報告④
12	資料に基づく調査結果報告⑤
13	資料に基づく調査結果報告⑥
14	専門演習 I 発表会①
15	専門演習 I 発表会②
16	専門演習 I 発表会の総括

### 【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習基礎」、「情報処理概論」、「プログラミング理論」、「プログラミング I・II」の履修を条件とする。

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを紹介していく。  
テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

### 【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

## 専門演習 I

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

経済学の知識を基に、リーマンショックによる大不況が何故起こったか、デフレスパイラルとは何か、沖縄の発展戦略は等、今、社会で起こっている事象、現象を分かりやすく解説したい。毎回、テーマを決め課題を与える。資料収集、分析、まとめ、プレゼンテーションのスキルを磨きつつ、社会・経済現象の理解力を培い問題解決の能力を高めていきたい。ディベートも積極的に行いたい。

### 【授業の展開計画】

1. テーマ①と課題の設定
2. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
3. 課題の発表とディスカッションと総括
4. テーマ②と課題の設定
5. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
6. 課題の発表とディスカッションと総括
7. テーマ③と課題の設定
8. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
9. 課題の発表とディスカッションと総括
10. テーマ④と課題の設定
11. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
12. 課題の発表とディスカッションと総括
13. ディベートの進め方
14. ディベート (1)
15. ディベート (2)

### 【履修上の注意事項】

毎回、テーマを決め、資料収集し、分析方法を基本から教え、発表やディスカッションの能力を高める。とにかく楽しいゼミにしたい。

### 【評価方法】

出席、レポート、発表等を基に総合的に評価する。

### 【テキスト】

一つのテキストを解説していくわけではないので指定しない。

### 【参考文献】

## 専門演習 I

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文作成に向けて、プレゼンテーション、テーマ設定、統計分析の手法などの準備を行う。

### 【授業の展開計画】

1～5回プレゼンテーションの方法と各自発表

6～10テーマ設定方法と各自発表

11～15統計分析・手法の紹介

### 【履修上の注意事項】

発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。

レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

### 【評価方法】

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

### 【参考文献】

講義で必要な資料・書籍については適宜指示する。

## 専門演習 I

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習基礎で身につけたプログラミング技能を基に、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。

### 【授業の展開計画】

本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。第1回目の講義で受講者の担当スケジュールを決め、スケジュールに沿って取り組み状況の進捗を報告を報告してもらう。

### 【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、受講生に対して事前に課題を与え、その報告を踏まえて講義を進めていく。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

### 【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

### 【テキスト】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

### 【参考文献】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

## 専門演習 I

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習基礎で学んだアンケート調査票の設計や入力、調査分析手法等を2～3名のグループによるフィールドワークや事例研究等を通じて身につけさせる。そのための指導助言を対面並びにメール等により適宜支援し、最終的にはグループによる課題の提出を求め、発表会を実施する。”

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 グループ課題研究に向けての心構えやスケジュール等のオリエンテーション
- 2～4 週目 グループ編成とグループ毎の仮説や調査項目の設定、調査票の設計、調査方法、分析手法の検討等
- 6～8 週目 予備調査と調査票の再設計並びに本調査の実施
- 9～10 週目 データ入力用ワークシートの設計とデータ入力作業、入力エラーチェック
- 11～12 週目 クロス集計・分析、カイ二乗検定や相関分析等統計的検証
- 13～14 週目 グループ課題のまとめ、発表用スライドの作成
- 15 週目 グループ課題研究の発表会
- 16 週目 反省会と専門演習2に向けての意見交換会

### 【履修上の注意事項】

専門演習基礎で砂川ゼミを受講した方を優先する。

### 【評価方法】

ゼミへの出席状況、グループ課題への取り組み、課題レポートの内容、発表会におけるプレゼンテーション、質疑等を考慮して総合的に評価する。

### 【テキスト】

個々のグループが作成したレジュメ（調査票等）に基づき指導助言を行う。全員に共通な指導においては、必要に応じて説明資料を配布する。

### 【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

## 専門演習 I

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。

### 【授業の展開計画】

これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。

### 【履修上の注意事項】

原則として皆出席・無遅刻であること。

演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。

情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

### 【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

### 【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

### 【参考文献】

酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006）

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）

鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）

## 専門演習 I

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

本演習では、専門演習基礎で学んだ基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。また、実際の企業ではどのような情報技術が必要でどのような人材が求められているのかなどを、インターンシップ企業を紹介しながら解説していく。夏期休業中に実施される企業インターンシップに向けての心構えや関連技術のeラーニングコンテンツなどの取り扱いについても説明する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	システム設計系卒論の説明
3	マーケティングリサーチ・ウェブプロモーション系卒論の説明
4	卒業論文と就職希望業種との連携
5	eラーニングコンテンツの説明
6	過去の卒論内容紹介 1
7	過去の卒論内容紹介 2
8	インターンシップ企業の紹介と将来の職業について
9	インターンシップに向けての心構え 何を学ぶのか？
10	インターンシップに向けての課題(コンテンツ系の場合)
11	インターンシップに向けての課題(システム設計系の場合)
12	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 1
13	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 2
14	卒業論文個別テーマのプレゼンテーション 3
15	卒業論文中間発表 1
16	卒業論文中間発表 2 および総括

### 【履修上の注意事項】

原則として皆出席を求め、企業インターンシップへの参加を義務づける。授業の展開計画はあくまでも予定であるので、内容が変わることがある。学外講師を招聘し、講話いただく予定があるため、その場合には土曜日に時間帯を変更する場合もある。

### 【評価方法】

評価は出席状況やプレゼンテーションにより総合的に判断する。

### 【テキスト】

開講時に指定する。

### 【参考文献】

開講時に指定する。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習Ⅱでは、金融経済を対象にした卒業研究を進める。卒業研究では、データを収集して基本的な図表を作成した後、Microsoft Excelを利用した分析を行い、計算結果を解釈する試行を繰り返すことになる。効率的に研究作業をするために、分析作業と並行した参考文献の熟読を薦める。1月末に卒業研究の報告会を行うため、受講生には報告可能な研究成果を要求する。なお、ファイナンシャルエコノミクスⅡを受講し、金融経済を対象にしたExcel計算に習熟しておくこと。

### 【授業の展開計画】

- (1) 問題意識と仮説を具体化する。
- (2) 研究領域・データに対応した理論が何か調べ、理解する。
- (3) 研究テーマに応じた分析を試行錯誤する。
- (4) 出力結果と理論を対応させ、分析結果を解釈する。
- (5) 卒業研究を報告する。

### 【履修上の注意事項】

- (1) Excel操作そのものではなく、計算結果の理解が要求される。
- (2) 積極的な学習意欲がなければ理解が困難になるので、注意すること。

### 【評価方法】

卒業研究の進捗状況で評価を決定する。

### 【テキスト】

教科書は使用しない。教材が必要な場合には、プリントを配布する。

### 【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川栄次・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習では、地域産業・経済などに関するデータや情報の分析を通じて、問題の発見力と分析力を高めるとともに、地域産業や経済の問題点を考察し、持続的・地域発展を図るための諸方策を探究する。

### 【授業の展開計画】

専門演習Ⅰの学習成果を踏まえ、個別に設定した卒業論文の研究テーマに関連した文献レビュー、データや情報を収集・分析するとともに、研究成果の取り纏めおよびプレゼンテーションを行う。

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

出席、課題の提出、卒業論文プレゼンテーションの状況に基づき総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

テキストはとくに指定しないが、演習の内容に合わせて必要な文献を紹介し、適宜、プリントやPDFファイルを配布する。

### 【参考文献】

演習内容に合わせて適宜紹介する。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本ゼミは、卒業研究における導入部分と位置づける。

夏期休業中に行ったゼミ合宿にて発表した卒業研究の仮テーマについて、使用するデータの収集を行う。そして、収集したデータの分析を行い、卒業研究の仮テーマの意義、目的、方法を導出していく。

このようにして、卒業研究の土台作りを通して就職活動に備えられるようにしていくことを目指す。

講義期間が終了する頃には卒業研究テーマを決定し、卒業研究テーマについて学内において公開発表を行う。

### 【授業の展開計画】

#### 【第1週目】

ガイダンス

#### 【第2週目～15週目】

各自、各回のゼミにおいてレジュメを作成し、ゼミ生全員にレジュメを配付し、研究内容の進捗状況を報告する（一人5分程度）。必要に応じて、パワーポイントを用いて報告を行う。

最終課題として、行ってきた研究内容の報告書を提出すること。

### 【履修上の注意事項】

- ・ゼミ形式のため、原則として欠席及び遅刻は厳禁
- ・欠席をする場合は、事前に必ず連絡をすること
- ・欠席した回の研究進捗状況の報告は、次回までに必ず行うこと
- ・各回において、レジュメを必ず作成すること
- ・1/3以上の欠席の場合は、単位を認めない

### 【評価方法】

研究活動の進捗度、ゼミ活動における意欲、出席率を総合して、「優」、「可」、「不可」の3段階で評価する

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献】

特に定めない。適宜示します。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

開講当初はハード、ソフト等に関する基本的な知識の修得を目指し、その成果として各種情報処理関連資格（基本情報処理技術者試験、ITパスポート、CG検定、マルチメディア検定、画像処理検定等）の取得を義務付ける。またこうした情報処理に関する基本的な知識の上に、避けては通れないモノ作りに重点を置きながら、実際に100%作り込まなければ動かないシビアなシステム開発を体験してもらいたい。

卒業研究のテーマに関しては、個人の興味ある研究対象を優先的に割り当てるので、是非とも積極的な研究姿勢を見せてもらいたい。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	基本計画①・・・仕様書
3	基本計画②・・・システム化計画書
4	基本計画③・・・開発計画書
5	外部設計の基本
6	内部設計の基本
7	プログラム設計の基本①
8	プログラム設計の基本②
9	モジュール化とインターフェイス
10	処理手順のデザイン①
11	処理手順のデザイン②
12	設計内容の文章化①
13	設計内容の文章化②
14	設計内容の文章化③
15	設計文書のレビュー①
16	設計文書のレビュー②

### 【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習Ⅰ」の履修を条件とする。

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、各種情報関連資格の取得状況等に基づき総合的に評価する。

### 【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

### 【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

近年のマイクロエレクトロニクス分野の進歩による計算機の高性能低価格化にともない、情報処理技術を用いて、業務を効率的に行いたいというニーズが高まっている。また、近年の複雑化した経済現象を分析する上で、情報処理技術は欠かすことのできないものである。本演習では、専門演習Ⅰに引き続き、受講者が感心のある研究テーマに取り組む。

### 【授業の展開計画】

本演習では、受講者の研究テーマに関する調査結果を基に議論し、新規性と有用性を重視して各自の研究テーマに取り組む。第1回目の講義で受講者の担当スケジュールを決め、スケジュールに沿って取り組み状況の進捗を報告を報告してもらう。

### 【履修上の注意事項】

- ①本演習は、情報処理システムの構築を必須とする。
- ②本演習では、受講生に対して事前に課題を与え、その報告を踏まえて講義を進めていく。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

### 【評価方法】

課題提出および出席状況により評価する。

### 【テキスト】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

### 【参考文献】

未定（第1回目の講義で連絡します）。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習Ⅰに引き続き卒業論文作成に向けての準備と指導を行う。

### 【授業の展開計画】

各自発表日を割り当て、研究テーマ・手法・妥当性についてディスカッションを行う。

### 【履修上の注意事項】

レポート作成や発表準備のために講義時間外でも作業や勉強が必要である。  
発表日に無断で欠席した場合は単位を認めない。

### 【評価方法】

受講態度、発表、レポートなど総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

### 【参考文献】

講義に必要な資料・書籍については適宜指示する。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行っていく。

### 【授業の展開計画】

専門演習Ⅲに引き続き、これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。  
各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。

### 【履修上の注意事項】

原則として皆出席・無遅刻であること。

演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。

情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

### 【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

### 【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

### 【参考文献】

酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006）

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）

鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）

## 専門演習Ⅱ

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習Ⅰの課題演習等を踏まえて、各自の卒論研究計画書の作成を指導し、各自の卒論研究計画書に基づく文献・資料の収集、フィールド調査及び分析、等を適宜支援し、進捗報告会に加え、ゼミ内公開、学内公開、一般公開等の発表会を通じて、研究内容や発表資料（スライドづくり）の充実度、発表態度の醸成を図る。

### 【授業の展開計画】

- 1週 課題研究に向けての心構えやスケジュール等のオリエンテーション
- 2週 個々人の卒論計画書の作成指導
- 3週 卒論課題計画書の発表会
- 4～5週 卒論課題の実施・助言指導
- 6週 第1回進捗状況報告会
- 7～8週 卒論課題の実施・助言指導
- 9週 第2回進捗状況報告会
- 10週 卒論課題の実施・助言指導
- 11週 卒論課題中間（ゼミ内公開）発表会
- 12～13週 卒論課題・発表等の改善・助言指導
- 14週 卒論課題中間（学内公開）発表会
- 15週 卒論課題・発表等の改善指導助言
- 16週 卒論課題最終（一般公開）発表会

### 【履修上の注意事項】

専門演習Ⅰ（砂川）を修得した者を優先する。

### 【評価方法】

ゼミへの出席状況、ゼミ内公开发表会、産業情報学科の教員・学生等が参加する学内公开发表会、ゼミのOB・OGの方々、学外の企業関係者等が参加する一般公开发表会等の評価（内容、スライド表現、発表態度）等も参考にしながら総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。ゼミ生各自が提出したレジュメ、レポート等を配布

### 【参考文献】

## 専門演習Ⅱ

担当教員 安里 肇

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習は専門演習基礎、専門演習Ⅰおよび企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、特に興味のある事柄にテーマを絞り、各自、考察を進めていく。12月には個別テーマ毎にプレゼンテーションを行い、その成果を公開する。4年次配当科目の「卒業論文」に向けた最終準備科目である。

### 【授業の展開計画】

12月末のプレゼンテーションに向けて、中間発表やグループディスカッションにより、個別テーマの考察を行う。基本的にシステム設計系の内容はウェブアプリケーションの制作とスマートフォンアプリの制作で、コンテンツ制作系はeラーニングコンテンツおよびウェブサイト構築・管理およびウェブマーケティングの内容となる。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	過去の卒業論文の紹介
3	システム設計系卒論の目標設定
4	コンテンツ制作系卒論の目標設定
5	個別報告(プレゼン) 1
6	個別報告(プレゼン) 2
7	個別報告(プレゼン) 3
8	個別報告(プレゼン) 4
9	個別報告(プレゼン) 5
10	個別報告(プレゼン) 6
11	個別報告(プレゼン) 7
12	個別報告(プレゼン) 8
13	個別報告(プレゼン) 9
14	卒業論文発表会 1
15	卒業論文発表会 2
16	総括

### 【履修上の注意事項】

4年次配当科目の「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」と密接にリンクしているため、卒業論文作成を念頭に置いたテーマ設定、プレゼンテーションが望まれる。

### 【評価方法】

評価はプレゼンテーションの内容により判断する。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献】

開講時に個別テーマ毎に指定する。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習基礎で学習した沖縄県の経済、地域振興についてさらに掘り下げて学習していく。沖縄県の経済、地域振興についてテーマを絞り、情報収集、整理、分析について学ぶ。これによってレポートや論文としてまとめる基本的な能力を身につけていく。さらに、報告や質疑を通じてディスカッションの能力を高めていく。

### 【授業の展開計画】

- (1) 沖縄県の経済①
- (2) 沖縄県の経済②
- (3) 沖縄振興計画① (21世紀プラン)
- (4) 沖縄振興計画② (21世紀プラン)
- (5) 沖縄振興計画③ (21世紀プラン)
- (6) レポート、論文の作成について①
- (7) レポート、論文の作成について②
- (8) テーマ設定と情報収集・分析①
- (9) テーマ設定と情報収集・分析②
- (10) レポート作成とプレゼンテーション①
- (11) レポート作成とプレゼンテーション②
- (12) レポート作成とプレゼンテーション③
- (13) レポート作成とプレゼンテーション④
- (14) レポート作成とプレゼンテーション⑤
- (15) 演習Ⅰの総括

### 【履修上の注意事項】

演習Ⅰのはじめの時間に説明します。専門演習基礎を受講していることを前提とします。

### 【評価方法】

演習への出席状況、レポートの作成、報告を基本に評価します。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

演習の時間に説明します。

## 専門演習Ⅱ

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習Ⅰを踏襲し、テーマを決めて、資料収集、分析、プレゼン、総括をして社会・経済現象の理解力を高めしていく。将来の就職を見据えて、県内企業の訪問を行い、企業分析を行いつつ、現場を理解し、就職活動にも資する。

### 【授業の展開計画】

1. テーマ⑤と課題の設定
2. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
3. 課題の発表とディスカッションと総括
4. テーマ⑥と課題の設定
5. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
6. 課題の発表とディスカッションと総括
7. テーマ⑦と課題の設定
8. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
9. 課題の発表とディスカッションと総括
10. テーマ⑧と課題の設定
11. 資料の収集と統計・計量分析の仕方
12. 課題の発表とディスカッションと総括
13. 企業視察の事前調査
14. 企業視察
15. 企業視察のまとめ

### 【履修上の注意事項】

毎回、テーマを決め、資料収集し、分析方法を基本から教え、発表やディスカッションの能力を高める。とにかく楽しいゼミにしたい。

### 【評価方法】

出席、レポート、発表等を基に総合的に評価する。

### 【テキスト】

一つのテキストを解説していくわけではないので指定しない。

### 【参考文献】

その都度、紹介する

## 卒業論文演習 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

これまでの演習で論文のテーマ設定と展開、情報収集と分析、論文のまとめ方について学習してきた。これらの基本的な知識を基に、各自のテーマにそって卒業論文を作成していく。卒業論文演習 I では、主にテーマの確定と情報収集、分析を中心として各自で論文をとりまとめ、概要報告およびディスカッションを通じて論文を完成させていく。

### 【授業の展開計画】

- 第 1 回 卒業論文のテーマと展開①
- 第 2 回 卒業論文のテーマと展開②
- 第 3 回 卒業論文のテーマと展開③
- 第 4 回 情報収集と分析①
- 第 5 回 情報収集と分析②
- 第 5 回 情報収集と分析③
- 第 6 回 情報収集と分析④
- 第 7 回 卒業論文概要報告①
- 第 8 回 卒業論文概要報告②
- 第 9 回 卒業論文概要報告③
- 第 10 回 卒業論文概要報告④
- 第 11 回 卒業論文概要報告⑤
- 第 12 回 情報収集・分析と論文作成①
- 第 13 回 情報収集・分析と論文作成②
- 第 14 回 情報収集・分析と論文作成③
- 第 15 回 情報収集・分析と論文作成④

### 【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項を説明します。

### 【評価方法】

演習への出席状況、論文作成の取り組み、論文の概要報告、ディスカッション等により総合的に評価します。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

## 卒業論文演習 I

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。

### 【授業の展開計画】

- 1 週目 卒論研究に向けての心構えやスケジュール等のオリエンテーション
- 2～14週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 15週目 全員による卒論中間発表会
- 16～24週目 各自の輪番による課題研究発表と質疑
- 25週目 全員による卒論最終発表会
- 26～30週目 卒論研究レポート作成指導と校正・論文集作成指導

### 【履修上の注意事項】

小生担当の専門演習Ⅲ、Ⅳを修得した者を優先する。

### 【評価方法】

ゼミへの出席状況、発表・質疑の状況、卒論発表、卒論レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。ゼミ生各自が調べてきた配布資料

### 【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

## 卒業論文演習 I

担当教員 又吉 光邦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文では、3年次までに進めた自ら研究を文書でまとめ、提出しなければならない。  
各学生個人が、それぞれ独自の卒業研究をもとに卒業論文作成を遂行する。

### 【授業の展開計画】

4月～5月：3年次までの卒業研究をまとめた卒業研究論文のレジメ作成を行う。  
6月～7月：作成したレジメを基に中間発表会を行う。中間発表では、プロジェクタを利用する。また、卒業論文（中間資料）を制作し提出する。発表は、ホテルの会議室などでの学術発表形式を行う。

また、企業訪問を行う場合もある。

### 【履修上の注意事項】

言葉づかい。礼儀。

### 【評価方法】

セミナー出席50%、卒業論文の提出と発表50%

### 【テキスト】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

### 【参考文献】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

## 卒業論文演習 I

担当教員 小渡 悟

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習I～IVにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習 I・IIでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。

### 【授業の展開計画】

これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。

### 【履修上の注意事項】

原則として皆出席・無遅刻であること。

演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。

情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

### 【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

### 【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

### 【参考文献】

酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006）

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）

鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）

## 卒業論文演習 I

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習Ⅱで報告した卒業研究をもとに、卒業論文を完成させることが目的である。執筆作業は、報告した研究レジュメの加筆・修正を手始めとする。具体的には、まとめるまでに至らずに報告できなかった事項、理解が不十分なまま報告してしまった事項、不適切さを指摘された事項、などが対象である。これらの作業を通じ、研究内容の充実を図ってもらいたい。なお、就職活動や公務員・教員試験の時期と重なるため、受講生の諸状況に合わせ、指導する。

### 【授業の展開計画】

- (1) 問題意識および仮説の再確認
- (2) 参考資料のまとめなおし
- (3) 分析手法の再確認
- (4) Excel計算結果の再解釈
- (5) 中間報告レジュメの再執筆

### 【履修上の注意事項】

- (1) 卒業論文としてまとめ上げるには、講義時間外の作業を要する。
- (2) 就職活動と称して、安易に欠席しないこと。

### 【評価方法】

論文執筆の進捗状況によって評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する。

### 【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社、2008年。
- [2] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣、2007年。

## 卒業論文演習 I

担当教員 大井 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習 I から IV で習得した知識、技術の集大成として卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会においてその成果を広く公表する。

なお卒業論文では、原則としてシステム開発を義務づけているため、本講義ではシステム開発の基礎となる資料収集ならびに調査にあたり卒業論文の意義、新規性などを明確にしながら研究計画書を作成する。

### 【授業の展開計画】

- 1：卒業論文について
- 2：研究資料の収集方法①
- 3：研究資料の収集方法②
- 4：資料に基づく調査結果報告①
- 5：資料に基づく調査結果報告②
- 6：資料に基づく調査結果報告③
- 7：資料に基づく調査結果報告④
- 8：資料に基づく調査結果報告⑤
- 9：資料に基づく調査結果報告⑥
- 10：研究計画書の作成手順①
- 11：研究計画書の作成手順②
- 12：研究計画書の作成①
- 13：研究計画書の作成②
- 14：研究計画書のレビュー①
- 15：研究計画書のレビュー②
- 16：研究計画書のレビュー③

### 【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習 I」から「専門演習 IV」の履修を条件とする。

卒業論文では、システム開発を義務付ける。

またより積極的、主体的な取り組みとなるよう、複数人での卒業論文は認めない。

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、卒業論文、卒業論文研究発表会等を総合的に判断する。

### 【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを随時紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

### 【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

## 卒業論文演習 I

担当教員 平良 直之

対象学年 4年

単位区分 必

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

### 【授業のねらい】

調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。

### 【授業の展開計画】

本講義では、専門演習 I～IVで取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。具体的には、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。

### 【履修上の注意事項】

- ①卒業論文のテーマは、情報処理システムに関連する内容とする。
- ②本講義では、進捗報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

### 【評価方法】

卒業論文の内容および出席状況により評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献】

未定（第一回目の講義の際に連絡します）。

## 卒業論文演習 I

担当教員 兪 炳強

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習では、情報の収集力、問題の発見力と分析力を高めるとともに卒業論文を取り纏める。

### 【授業の展開計画】

演習Ⅲ・Ⅳの学習成果を踏まえ、個別に設定した卒業論文の枠組みに沿って、情報やデータの収集・調査・分析を行うと同時に研究発表を重ね、卒業論文の論点的確性、内容や表現の明確性、方法の妥当性を高める。

### 【履修上の注意事項】

第一回の演習時に説明する。

### 【評価方法】

出席や研究発表の状況などに基づき総合的に評価する。

### 【テキスト】

各自の研究テーマに即した資料を配布し、図書を紹介する。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 卒業論文演習 I

担当教員 安里 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習基礎、専門演習 I・II および企業インターンシップで学んだ基本および実践的情報技術の中で、個別テーマを選定し研究成果をプレゼンテーションにより公開したが、本演習では、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。

### 【授業の展開計画】

個別テーマをさらに深化させ、定期的に卒論報告会を実施する。報告会の中では、他の学生の卒業論文に対しての意見や疑問などを議論して、お互いの研究内容を理解していく。個別テーマとしては下記のような具体的なテーマを設定している。

- スマートフォンアプリの構築
- HTML 5・JavaScriptやFlash等を用いたeラーニングシステムの構築
- 電子商取引およびウェブマーケティングに関する考察
- 株価シミュレーションシステムおよび経営分析システム
- PHPを用いたウェブアプリケーションの構築

### 【履修上の注意事項】

基本的に専門演習基礎、専門演習 I、II からの持ち上がりになる。他の教員の演習を履修した学生は受け入れない（ただし、事前に自分の卒業論文のプレゼンテーションを行い認められた場合は受け入れる）。また、専門演習 I との同時受講は認める。

### 【評価方法】

制作した卒業論文を評価する。

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献】

講義時に個別に指定する。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 砂川 徹夫

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰに引き続き、各自の研究計画書に基づく課題研究について、参考文献、資料収集、フィールド調査及び分析、情報システム開発等を適宜支援し、最終的には卒業論文として提出を求め、研究発表を行う。

随時、各自の遂行状況を把握するため、輪番による中間発表を実施する。”

### 【授業の展開計画】

第1週～8週 各自の輪番による課題研究発表と質疑

第9週目 全員による卒論最終発表会

第10～15週目 卒論研究レポート作成指導と校正・論文集作成指導

第16週 総合評価並びに反省会

### 【履修上の注意事項】

小生担当の卒論論文演習Ⅰを修得した者を優先する。

### 【評価方法】

ゼミへの出席状況、発表・質疑の状況、卒論発表、卒論レポートの内容等を考慮して総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。ゼミ生各自の発表用レジユメを配布

### 【参考文献】

必要に応じてその都度紹介する。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 小渡 悟

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習Ⅰ～Ⅳにおいて、これまで学習してきた基本的な情報技術をベースにして、個別テーマを決定し、各自が深く掘り下げて考察を行ってきた。卒業論文演習Ⅰ・Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、卒業研究論文を作成する。

### 【授業の展開計画】

これまでの講義・演習で習得した情報処理技術および研究テーマに関する調査結果を基に議論する。各受講者の担当スケジュールを第1回の授業で決め、担当スケジュールに沿って卒業研究の進捗状況を報告してもらう。

### 【履修上の注意事項】

原則として皆出席・無遅刻であること。

演習時間以外にも課外活動（情報関連シンポジウム参加、情報系ゼミの卒論発表会参加等）を課すので、それに対応できるようにすること。

情報処理関連試験の取得に取り込むこと。

### 【評価方法】

出席状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する

### 【テキスト】

受講生が設定した卒論テーマに基づき、個別に指定する

### 【参考文献】

酒井聡樹「これから論文を書く若者のために 大改訂増補版」共立出版（2006）

小林茂 他「フィジカルコンピューティングを「仕事」にする」ワークスコーポレーション（2011）

鍵和田京子 他「よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方」東京図書（2001）

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 又吉 光邦

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文では、3年次までに進めた自ら研究を文書でまとめ、提出しなければならない。  
各学生個人が、それぞれ独自の卒業研究をもとに卒業論文作成を遂行する。  
また、卒業研究論文の発表（最終発表）を必ず行う。

### 【授業の展開計画】

9月～11月：卒業論文演習Ⅰで作成した卒業研究の中間成果をまとめて卒業研究論文の作成を行う。  
12月～2月：卒業研究論文を発表（最終発表）できるようにまとめる。最終発表では、プロジェクタを利用する。発表は、ホテルの会議室などでの学術発表形式を行う場合もある。

### 【履修上の注意事項】

言葉づかい。礼儀。

### 【評価方法】

セミナー出席50%、卒業論文の提出と発表50%

### 【テキスト】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

### 【参考文献】

それぞれの卒業論文のテーマに沿ったものを自ら、探してください。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰで論文のテーマ・展開について確定し、情報収集、分析、概要報告を通じて論文作成に取りかかっている。卒業論文演習Ⅱでは、情報収集、分析をより進め、論文の作成を進めていく。中間報告で論文の全体的な進み具合を確認し、ディスカッションを通じてより良い論文となるよう取り組んでいく。最終報告で研究した知見を報告し、質疑を通じて知見を深める。

### 【授業の展開計画】

- 第1回 情報収集・分析と論文作成①
- 第2回 情報収集・分析と論文作成②
- 第3回 情報収集・分析と論文作成③
- 第4回 情報収集・分析と論文作成④
- 第5回 情報収集・分析と論文作成⑤
- 第6回 卒業論文中間報告①
- 第7回 卒業論文中間報告②
- 第8回 卒業論文中間報告③
- 第9回 卒業論文中間報告④
- 第10回 卒業論文の修正①
- 第11回 卒業論文の修正②
- 第12回 卒業論文の修正③
- 第13回 卒業論文最終報告①
- 第14回 卒業論文最終報告②
- 第15回 卒業論文最終報告③
- 第16回 卒業論文の総括

### 【履修上の注意事項】

演習のはじめの時間に注意事項をお知らせします。

### 【評価方法】

卒業論文演習Ⅱへの出席状況、論文の取り組み、中間報告、最終報告の状況を総合的に判断して評価します。

### 【テキスト】

### 【参考文献】

演習のはじめの時間に紹介します。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 大井 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

専門演習ⅠからⅣならびに卒業論文演習Ⅰで習得した知識、技術の集大成として卒業論文を作成し、さらに卒業論文研究発表会において広くその成果を公表する。

卒業論文演習Ⅰにおいて作成された研究計画書に基づきシステム開発を行い、有用性をはじめとしたフィージビリティスタディを検証した後、卒業論文を作成し、卒業論文研究発表会に備える。

### 【授業の展開計画】

- 1：卒業論文について
- 2：システム開発①
- 3：システム開発②
- 4：システム開発③
- 5：システム開発④
- 6：システム開発⑤
- 7：システムレビュー①
- 8：システムレビュー②
- 9：システムレビュー③
- 10：卒業論文作成①
- 11：卒業論文作成②
- 12：卒業論文作成③
- 13：卒業論文作成④
- 14：卒業論文作成⑤
- 15：卒業論文中間発表会
- 16：卒業論文研究発表会

### 【履修上の注意事項】

本講義受講のためには、「専門演習Ⅰ」から「専門演習Ⅳ」ならびに「卒業論文演習Ⅰ」の履修を条件とする。

卒業論文では、システム開発を義務付ける。

またより積極的、主体的な取り組みとなるよう、複数人での卒業論文は認めない。

### 【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、各種報告、卒業論文、卒業論文研究発表会等を総合的に判断する。

### 【テキスト】

適宜講義内容に最もふさわしいと思われるテキストを随時紹介していく。テキストはかなりの冊数になると思われるが必ず購入するようにしてもらいたい。

### 【参考文献】

自ら進んで考え、自分のレベルに合ったものを必要に応じて購入するようにしてもらいたい。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 兪 炳強

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本演習では、情報の収集力、問題の発見力と分析力を高めるとともに卒業論文を取り纏める。

### 【授業の展開計画】

卒業論文演習Ⅰの学習成果を踏まえ、情報やデータの収集・調査・分析を行うと同時に研究発表を重ね、卒業論文の論点の的確性、内容や表現の明確性、方法の妥当性を高め、卒業論文を取り纏める。

### 【履修上の注意事項】

第一回の演習時に説明する。

### 【評価方法】

出席状況や研究発表の状況を踏まえて総合的に評価する。

### 【テキスト】

研究内容に沿って適宜参考資料を配付し図書を紹介する。

### 【参考文献】

適宜紹介する。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 平良 直之

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

調査結果・検討成果を文書として取りまとめる技能やこれらを効果的に報告する技能は、社会人として企業に勤める上でも必須の能力と言える。本講義では、論理的な考察能力、文書作成能力、プレゼンテーション能力の修得を目指す。

### 【授業の展開計画】

本講義では、専門演習Ⅰ～Ⅳで取り組んだ内容を基に、卒業研究として発展させ取り纏めることを目的とする。卒業論文演習Ⅰと同様に、第1回目の講義で担当を決め、各担当者の進捗報告をもとに議論し論文としてまとめる。

### 【履修上の注意事項】

- ①卒業論文のテーマは、情報処理システムに関連する内容とする。
- ②本講義では、進捗報告を踏まえて講義を進めていく。したがって、講義外でかなりの時間を費やすことになるので、この事を十分理解した上で受講を希望すること。
- ③出席状況を重視し、講義の3分の1以上欠席したものは原則として不可とするので注意すること。

### 【評価方法】

出席状況および卒業論文、成果発表により評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献】

特に指定しない。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文演習Ⅰで行った報告レジュメの加筆・修正をもとに、卒業論文を完成させる。報告レジュメを論文として完成させるには、参考文献・資料やExcel分析の追加が不可欠である。専門演習Ⅰ以後、1年以上にわたって同一テーマを考察し続けてきたため、ゼミ生には、これら追加的作業の自主性・工夫を求めたい。そのためには、研究の進行に計画と修正が必要になる。半年の限られた時間の中での執筆になるが、適切な問題意識と仮説から明確な結論を導く卒業論文を目指したい。

### 【授業の展開計画】

- (1) 論文構成の工夫，タイトルの決定
- (2) 参考文献・資料の追加
- (3) Excel分析の追加
- (4) 追加した分析の解釈
- (5) 研究成果のまとめ，文章化

### 【履修上の注意事項】

- (1) 卒業論文としてまとめ上げるには、講義時間外の作業を要する。
- (2) 就職活動と称して、安易に欠席しないこと。

### 【評価方法】

卒業論文の内容により評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。教材が必要な場合は、プリントを配布する

### 【参考文献】

- [1] 浅利一郎・土居英二他『第3版 はじめよう 経済学のための情報処理』日本評論社，2008年。
- [2] 小川英治・地主敏樹・藤原秀夫他『金融論』有斐閣，2007年。

## 卒業論文演習Ⅱ

担当教員 安里 肇

対象学年 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文Ⅰに引き続き、卒業論文Ⅱでは、その内容をさらに深化させて、最終的な卒業研究論文を作成する。

### 【授業の展開計画】

個別テーマをさらに深化させ、定期的に卒論報告会を実施する。報告会の中では、他の学生の卒業論文に対しての意見や疑問などを議論して、お互いの研究内容を理解していく。個別テーマとしては下記のような具体的なテーマを設定している。

- スマートフォンアプリの構築
- HTML5・JavaScriptやFlash等を用いたeラーニングシステムの構築
- 電子商取引およびウェブマーケティングに関する考察
- 株価シミュレーションシステムおよび経営分析システム
- PHPを用いたウェブアプリケーションの構築

### 【履修上の注意事項】

基本的に専門演習基礎、専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業論文演習Ⅰからの持ち上がりになる。他の教員の演習を履修した学生は受け入れない（ただし、事前に自分の卒業論文のプレゼンテーションを行い認められた場合は受け入れる）。また、演習Ⅳとの同時受講は認める。

### 【評価方法】

提出された卒業論文を評価する。

### 【テキスト】

特になし

### 【参考文献】

講義時に個別に指定する。

## 多変量解析論

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

卒業論文やレポートの作成において原因と結果・因果関係を証明・主張するためには、客観的な情報やデータに基づいて論拠をしめす必要がある。こうした因果関係を統計的に明らかにする手法として多変量解析が存在する。本講義では多変量解析の手法として一般的な回帰分析を中心に行う。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	単回帰分析①：回帰分析の具体例、回帰分析の流れ
3	単回帰分析②：誤差項の前提、最小二乗法、微分
4	単回帰分析③：相関係数、寄与率（決定係数）
5	単回帰分析④：仮説検定
6	単回帰分析⑤：信頼区間
7	これまでのまとめ・演習
8	重回帰分析①：重回帰分析の具体例、重回帰分析の流れ
9	重回帰分析②：重回帰係数、自由度調整済み寄与率（決定係数）
10	重回帰分析③：仮説検定・信頼区間
11	重回帰分析④：ダミー変数を用いた重回帰分析
12	重回帰分析⑤：誤差項の前提・演習、計算問題
13	応用①事例を使った分析
14	応用②事例を使った分析
15	まとめ
16	期末試験

### 【履修上の注意事項】

数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

そのためデータ解析論Ⅰ・Ⅱなどの数学・統計学に関連する講義の履修が望ましい。

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

### 【評価方法】

授業態度・課題・期末試験の3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

### 【テキスト】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学回帰分析編』オーム社2005年

### 【参考文献】

## 地域産業概論

担当教員 兪 炳強

対象学年 1年

単位区分 選必

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

本講義では、地域産業の構造変化や振興のあり方について講義する。具体的には、前半では、地域と産業の関わり方、地域の産業構造、産業の立地および集積などに関する基礎的理論を講義する。後半では、沖縄を事例に、地位産業の実態および今日的課題について講義する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	地域と産業・経済
3	地域と産業構造
4	産業の立地
5	産業集積
6	産業ネットワーク
7	産業クラスター
8	中間まとめ
9	沖縄の産業・経済の全体像
10	沖縄の産業経済政策
11	沖縄の産業構造
12	沖縄の第一次産業
13	沖縄の第二次産業
14	沖縄の第三次産業
15	まとめ
16	

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

出席状況、履修態度および試験の結果に基づき評価を行う。

### 【テキスト】

プリントおよびPDFファイルを配布する。

### 【参考文献】

伊藤正昭『新版 地域産業論』学文社、田中史人『地域企業論』同文館出版、内田真人『現代沖縄経済論』沖縄タイムズ社、そのほか授業内容に合わせて適宜紹介する。

## 地域産業政策論

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

経済発展論、地域分析論の基礎習得を基に、地域の経済システムの全体像を把握させる。現代の先進国や地域は、環境問題や人間疎外等の新たな現代病に直面している。地域の産業活動の実態や課題を理解させつつ、地域の発展とは何かについて共に考えたい。

沖縄21世紀ビジョン、それを基にした2012年度からスタートする「新たな計画」についても開設し、沖縄の将来展望についても論じる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域の産業政策とは
2	地域の産業と発展
3	沖縄経済分析の視点
4	発展プロセス 戦前期
5	発展プロセス 復帰前
6	発展プロセス 復帰後
7	沖縄経済の構造分析
8	地域の産業分析
9	基地経済
10	沖縄振興計画
11	振興計画とインパクト要因
12	沖縄経済の政策評価
13	沖縄経済の残された課題
14	沖縄21世紀ビジョン
15	沖縄の「新たな計画」
16	沖縄の発展とソフトパワー

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

テストとレポートにより評価する。

### 【テキスト】

特定のテキストはないが、各論において適宜紹介する。

### 【参考文献】

富川 盛武「沖縄の発展とソフトパワー」沖縄タイムス社

## 地域財政論 I

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

地方公共団体はこれまで国の財政と連携して、地域公共財の供給をはじめとした役割を果たしてきました。今日、地方分権の推進により、国と地方の役割分担、財源の配分をどのようにするのが大きな課題となっており、また、地方公共団体の地域公共財の供給、地域振興における役割が益々重要になってきています。講義では地方分権の流れや、全国の中でも財政依存の高い沖縄県の財政についても見ていきます。

### 【授業の展開計画】

- (1) 地域と財政①
- (2) 地域と財政②
- (3) 地方分権と国，地方の役割①
- (4) 地方分権と国，地方の役割②
- (5) 地域公共財①
- (6) 地域公共財②
- (7) 地方歳入について
- (8) 地方歳出について
- (9) 一般財源補填による財源調整①
- (10) 一般財源補填による財源調整②
- (11) 特定補助金のしくみと課題①
- (12) 特定補助金のしくみと課題②
- (13) 沖縄県の財政と課題①
- (14) 沖縄県の財政と課題②
- (15) 期末試験

### 【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は、必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

### 【評価方法】

出席状況、課題レポートの提出状況、期末試験の結果を基に行います。

### 【テキスト】

- ① 「地方財政」，林宜嗣著，有斐閣ブックス，② 「地方財政白書」，自治省

### 【参考文献】

- ① 「地方財政読本」林健久編、東洋経済新報社、② 「分権社会の地方財政」林宏昭著、中央経済社

## 地域財政論Ⅱ

担当教員 前村 昌健

対象学年 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

まず、地方分権と税財源の拡充，地方債，地方公営企業，第三セクター，都市の財政問題について理解を深めます。次に地方公共団体の地域振興における役割と産業振興における政策展開について取り上げます。今日，地域間の競争が高まる中で，地方公共団体の地域振興における役割が益々高まってきており，とくに産業振興について検討することが重要になってきています。

### 【授業の展開計画】

- (1) 地方分権と税財源の拡充①
- (2) 地方分権と税財源の拡充②
- (3) 地方債と財源調達の変力化
- (4) 地方公営企業と第三セクターの課題①
- (5) 地方公営企業と第三セクターの課題②
- (6) 都市財政①
- (7) 都市財政②
- (8) 高齢社会と地方財政①
- (9) 高齢社会と地方財政②
- (10) 財政分析①
- (11) 財政分析②
- (12) 沖縄県の財政①
- (13) 沖縄県の財政②
- (14) 情報化と地方公共団体の対応
- (15) 期末試験

### 【履修上の注意事項】

地域財政論Ⅰを履修していることが望ましい。第一回目の講義の時間に留意事項を連絡します。

### 【評価方法】

成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

### 【テキスト】

- ①「地方財政」，林宜嗣著，有斐閣ブックス，

### 【参考文献】

- ①「地方財政」，橋本，牛島，米原，本間編有斐閣、②「地方財政白書」，総務省

## 地域発展論

担当教員 富川 盛武

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

地域の視点から科学的に発展について分析、議論できる素養を身につけることが本講義の目的である。経済発展論、地域分析論の基礎習得を基に、地域の経済システムの全体像を把握させる。地域を取り巻く経済的・社会的環境が激変する中、理論・実証の研究を通じて、経済の「法則性」を見極める目を涵養する。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域分析の視点と意義
2	地域と経済
3	地域構造
4	地域発展とは
5	地域計画
6	政策評価
7	地域と人口
8	人口推計
9	少子化と地域
10	地域の持続的発展
11	スマート・シティ
12	地域分析から見た沖縄（1）
13	地域分析から見た沖縄（2）
14	地域分析から見た沖縄（3）
15	地域分析から見た沖縄（4）
16	地域のソフトパワー

### 【履修上の注意事項】

講義だけでなく、パソコンを使いながら地域分析も行う。

### 【評価方法】

テストとレポートによって評価する。

### 【テキスト】

適宜紹介する。

### 【参考文献】

富川 盛武「沖縄の発展とソフトパワー」沖縄タイムス社

## 知的情報処理

担当教員 平良 直之

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

今日の企業においては、変動の激しい市場や社会からの多様な要求に対して迅速かつ柔軟に対応していくことが必要である。このことを実現するためには、経験や勘に頼るだけでなく、得られた情報を柔軟に捉え知的に処理するための理論的枠組みが重要となる。本講義では、人間の嗜好や予測を定量的に扱う概念として知られるファジィ理論を中心に、知的情報処理について学習する。

### 【授業の展開計画】

本講義では、不確定情報や主観的判断の計測、知的尺度、推論などの概念とこれらを扱う手法やアルゴリズムについて学ぶ。具体的には、次の計画のもとで授業を展開する予定であるが、受講生の状況に応じて予定を変更することがあるので留意すること。

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	知的情報処理の概要
3	情報と曖昧さ(1)
4	情報と曖昧さ(2)
5	不確定情報の処理(1)
6	不確定情報の処理(2)
7	知的尺度の処理(1)
8	知的尺度の処理(2)
9	知的尺度の処理(3)
10	システム制御とファジィ関係(1)
11	システム制御とファジィ関係(2)
12	システム制御とファジィ関係(3)
13	知的情報処理と推論アルゴリズム(1)
14	知的情報処理と推論アルゴリズム(2)
15	知的情報処理と推論アルゴリズム(3)
16	

### 【履修上の注意事項】

第1回目より講義を開始する。第1回目に欠席した者は、登録を取り消すこともあるので注意すること。

### 【評価方法】

試験結果, 出席状況, レポートにより評価する。

### 【テキスト】

開講時に指定する。

### 【参考文献】

- ・中島信之：『ファジィ数学のおはなし』倍風館(1997)
- ・井上洋、天笠美知夫：『ファジィ理論の基礎』朝倉書店(1997)

## データ解析論 I

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この講義では、統計・統計学についての基本的な概念について解説し、具体的かつ身近に使われている統計学の実例を紹介し、表計算ソフトを使用した統計処理などの実用的な演習などを行う。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	データの種類①データの性質
3	データの種類②度数分布表
4	記述統計学①平均
5	記述統計学②分散、標準偏差
6	記述統計学③基準値と偏差値
7	記述統計学④正規分布、確率密度関数
8	記述統計学⑤演習、計算問題
9	推測統計学①母集団と標本
10	推測統計学②大数の法則、中心基本定理
11	推測統計学③母平均の推定
12	推測統計学④母比率の推定
13	推測統計学⑤統計的仮説検定
14	推測統計学⑤演習、計算問題
15	総括
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある。  
数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

## 【評価方法】

授業態度・課題・期末試験の3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

## 【テキスト】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年

## 【参考文献】

菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年  
今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年  
熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

## データ解析論Ⅱ

担当教員 田口 順等

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

この講義では、データ解析論Ⅰに引き続き、回帰分析を中心に経済・経営の計量分析における基本的な分析手法について解説を行う。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義概要
2	二変数の関係①クロス集計表・散布図
3	二変数の関係②相関関係
4	二変数の関係③共分散・相関係数
5	二変数の関係④演習問題
6	二変数の関係⑤相関比・クラメールの連関係数
7	独立性の検定①仮説検定
8	独立性の検定②カイ二乗分布
9	独立性の検定②独立性のカイ二乗検定
10	単回帰分析①最小二乗法
11	単回帰分析②寄与率
12	単回帰分析③ t 検定
13	時系列データの分析①
14	時系列データの分析②移動平均・寄与率
15	まとめ
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

データ解析論Ⅰの履修が望ましい。

受講人数が多数である場合などの理由で、コンピュータを使った演習は他の内容に差し替えられる可能性がある。

数学や統計学の知識および表計算ソフトの基本的操作を必要とする講義である。

授業の進捗状況により、授業内容が前後および変更する場合がある。

## 【評価方法】

授業態度・課題・期末試験の3つで総合的に評価する。評価の変更や詳細については講義中に公表する。

## 【テキスト】

高橋信・トレンドプロ『マンガでわかる統計学』オーム社2004年

## 【参考文献】

菅民郎・檜山みぎわ『初めてわかる統計学』現代数学社1995年

今野紀雄『マンガでわかる統計入門』ソフトバンククリエイティブ2009年

熊原啓作・渡辺美智子『改訂版身近な統計』放送大学教育振興会2012年

## データベース

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

データベースの主流となっているリレーショナルデータベースについて、その考え方や構造等の基礎知識と、リレーショナルデータベースと対話するための標準言語であるSQLの基礎的・実践的な技法などを解説する。また、JavaによるDB連携アプリケーションの開発技術を習得することを目指す。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・データベースとは
2	リレーショナルデータベースの基本（1）
3	リレーショナルデータベースの基本（2）
4	SQL（1）
5	SQL（2）
6	SQL（3）
7	SQL（4）
8	トランザクションとロック
9	インデックスデータベースの性能向上
10	ビューー仮想表による定義
11	ストアドプロシージャデータベースアクセスの手続き化
12	ストアドファンクションとトリガー
13	Javaによるデータベースアプリケーションの作成（1）
14	Javaによるデータベースアプリケーションの作成（2）
15	Javaによるデータベースアプリケーションの作成（3）
16	総まとめ・期末試験

## 【履修上の注意事項】

Webアプリケーションの開発に興味がある学生の受講を希望します。

ウェブプログラミングを履修済みであることが望ましい

（データベースとしてMySQLを使用します）。

プログラミングⅠ・Ⅱ（プログラミング演習）を履修済みであることが望ましい

（Javaによるアプリケーションの作成があります。Javaに関するある程度の知識が必要です）。

## 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。出席状況、授業への取り組み、課題、試験等により総合的に判断を行う。

## 【テキスト】

山田祥寛「MySQLで学ぶデータベース超入門」翔泳社（2009）

## 【参考文献】

アंक「SQLの絵本」翔泳社（2004）

谷尻かおり「改訂新版 これだけはおさえないデータベース基礎の基礎」技術評論社（2009）

柴田 望洋「明解Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ（2007）

## パブリックファイナンス

担当教員 前村 昌健

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

公共部門（中央政府，地方公共団体）の役割は，市場を通じては供給不可能か困難である公共財を供給すること及び民間部門（家計，企業）の経済活動を促す枠組みを整えることにある．講義では国の財政についてとりあげる．はじめに財政の役割，しくみを学習し，所得税，消費税，法人税について学ぶ．次に，公共事業，社会保障といった支出についてふれる．とくに日本の財政赤字の問題と財政の持続可能性についてとりあげる．

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	市場と公共部門の役割①
2	市場と公共部門の役割②
3	財政のしくみ①
4	財政のしくみ②
5	租税について①（所得税）
6	租税について②（消費税、法人税）
7	公債について
8	公共支出について①（公共事業）
9	公共支出について②（社会保障）
10	財政赤字と財政の持続可能性①
11	財政赤字と財政の持続可能性②
12	社会保障と財政①（年金）
13	社会保障と財政②（医療）
14	情報化と公共部門の役割①
15	情報化と公共部門の役割②
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

講義の第一回目に履修上の注意事項を説明します。教科書は，必ず履修上の注意を聞いてから購入してください。

## 【評価方法】

成績評価は，出席状況，課題レポートの提出状況，期末試験の結果を基に行います。

## 【テキスト】

テキストは第一回目の講義で連絡します。連絡を受けてから購入して下さい。

## 【参考文献】

①「財政学」林宜嗣，新世社、②「日本の財政改革」青木昌彦・鶴光太郎編著，東洋経済

## ファイナンシャルエコノミクスⅠ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で利用される基本計算を理解することが目的である。学習の対象は家計(個人)と企業の金融行動である。授業の展開計画にみられるように、講義では様々な計算方法を実習する。実習内容が多いと、受講生は、目の前のExcel画面だけに注意が行きがちである。だが、Excel計算が目新しくても、考察対象は実生活(特に卒業後の)と関わりがあることを常に意識して欲しい。これがファイナンス計算を理解するコツだと考えている。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	経済活動とファイナンス：イントロダクション
2	ファイナンスの基礎概念の計算1：現在価値と将来価値、内部収益率
3	ファイナンスの基礎概念の計算2：積立預金の将来価値
4	ファイナンスの基礎概念の計算3：均等返済スケジュール
5	ファイナンスの基礎概念の計算4：年金の問題
6	学習内容の復習1
7	資本コストの計算1：株主資本コスト
8	資本コストの計算2：負債コスト
9	資本コストの計算3：加重平均資本コスト
10	1資産のリターンとリスク
11	学習内容の復習2
12	ポートフォリオ計算の基礎1
13	ポートフォリオ計算の基礎2
14	ポートフォリオ計算の基礎3
15	学習内容の復習3
16	期末試験

### 【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作そのものより、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展し、ファイルを作成していくため、遅刻や欠席が続くと受講が困難になる。

### 【評価方法】

出席、講義中の学習状況、提出物、試験等により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。

### 【参考文献】

- [1] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。
- [2] 野口悠紀雄『ビジネスに活かす ファイナンス理論入門』ダイヤモンド社、2004年。

## ファイナンシャルエコノミクスⅡ

担当教員 池宮城 尚也

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

Microsoft Excelを活用しながら、ファイナンス分野で多用される具体的な分析方法を理解することが目的である。実習するのは、主として株式を利用した貯蓄に関する分析方法である。受講生の多くは、貯蓄を目的にしながら損失が発生する状況があることを、本講義を通じて初めて知るかもしれない。なぜ「貯蓄するのに損失が発生するのか」という問題意識を持つことで、ファイナンス分野で数学が多く利用される理由に納得し、実生活で役立ちそうな興味が湧くと考えている。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ファイナンスの基本計算：イントロダクション
2	1 資産のポートフォリオ計算
3	2 資産のポートフォリオ計算
4	効率的フロンティアと資本市場線 1：4 資産のポートフォリオ
5	効率的フロンティアと資本市場線 2：Excel操作による理解
6	効率的フロンティアと資本市場線 3：モデル式の理解
7	効率的フロンティアと資本市場線 4：無リスク資産と資本市場線
8	効率的フロンティアと資本市場線 5：まとめ
9	学習内容の復習 1
10	資本資産市場モデル 1：ベータ・リスクの推定
11	資本資産市場モデル 2：証券市場線
12	学習内容の復習 2
13	ブラック・ショールズ・モデル 1：オプションの理論①
14	ブラック・ショールズ・モデル 2：オプションの理論②
15	学習内容の復習 3
16	期末試験

### 【履修上の注意事項】

- (1) 登録調整期間に欠席した場合は、登録を取り消すことがある。出席できない場合は、事前に連絡すること。
- (2) Excel操作そのものより、計算結果の理解を要求する学習内容が多い。
- (3) 1つ1つ積み重ねていく形で講義内容が進展し、ファイルを作成していくため、遅刻や欠席が続くと受講が困難になる。

### 【評価方法】

出席、講義中の学習状況、提出物、試験等により、総合的に評価する。

### 【テキスト】

教科書は使用しない。教材プリントを配布して解説する。

### 【参考文献】

- [1] 滝川好夫・前田洋樹『Excelで学ぶファイナンス④ 金融モデル実用の基礎』金融財政事情研究会、2006年。
- [2] 野口悠紀雄『ビジネスに活かす ファイナンス理論入門』ダイヤモンド社、2004年。

## プログラミング理論

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

### 【授業のねらい】

コンピュータ・ソフトウェアを中心とした情報処理の基本的な問題を扱う。具体的には、プログラミング言語の種類、流れ図の基本、基本アルゴリズムの理解、プログラミング言語Javaのコーディングの参考例などを取り上げて講義を進めていく。本講義では、基本的な論理構成手法（基本アルゴリズム）を覚えること（英語の基本文法を覚えるようなもの）を基本に、例題を基本アルゴリズムの組み合わせで構成し（簡単な英作文を練習するようなもの）、フローチャート（流れ図）の作成等を行う。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス 「プログラミングとは？」
2	アルゴリズム・フローチャート・構造化プログラミング
3	プログラミング言語の種類と分類
4	データ累計とカウンタ
5	java言語によるプログラム例
6	基本データ構造 1次元配列
7	基本データ構造 2次元配列
8	前半まとめおよび中間試験
9	システムエンジニアの仕事とは？
10	スタック・キュー・リスト
11	サーチ（検索）アルゴリズム
12	ソート（並べ替え）アルゴリズム 1
13	ソート（並べ替え）アルゴリズム 2
14	その他の応用アルゴリズム
15	後半まとめおよび最終試験
16	総括

### 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

### 【評価方法】

評価は、出席状況(40点)と試験(2回、200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。2年次以上の受講生は注意すること。

### 【テキスト】

テキストは講義時に指定する。なお、ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

### 【参考文献】

## プログラミング I

担当教員 大井 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、基本的なプログラミング技術の習得を目指すものである。プログラミング言語としてJavaを採用しているが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮している。

前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指す。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プログラミング言語とJava
2	変数における識別子と型
3	変数における宣言と利用
4	式と演算子
5	演算子の優先順位と型変換
6	関係演算子とif文
7	if-else文とswitch文
8	for文とwhile文
9	do-while文
10	配列
11	多次元配列
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解
13	フィールドとメソッド
14	オブジェクトの作成
15	オブジェクトの利用
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

第1週目の欠席者について登録を取り消す場合があることに留意する。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

## 【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、小テスト(4回以上)、期末試験等に基づいて総合的に評価する。なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

## 【テキスト】

明解Java 入門編 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ

## 【参考文献】

参考文献は、講義時に適宜紹介する。

## プログラミング I

担当教員 安里 肇

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、基本的なプログラミング技術の習得を目指すものである。プログラミング言語としてJavaを採用しているが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮している。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指す。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	プログラミング言語とJava
2	変数における識別子と型
3	変数における宣言と利用
4	式と演算子
5	演算子の優先順位と型変換
6	関係演算子とif文
7	if-else文とswitch文
8	for文とwhile文
9	do-while文
10	配列
11	多次元配列
12	オブジェクト指向とクラスの基礎的理解
13	フィールドとメソッド
14	オブジェクトの作成
15	オブジェクトの利用
16	総括

## 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

## 【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験およびレポート(200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

## 【テキスト】

明解Java 入門編 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ

## 【参考文献】

参考文献は講義時に紹介する。

## プログラミング I

担当教員 小渡 悟

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、基本的なプログラミング技術の習得を目指すものである。プログラミング言語としてJavaを採用しているが、初心者にも十分に理解できる講義内容となるよう配慮している。前半はJavaの文法理解の上に、基本的なプログラムの読解ならびに記述を主に取り上げ、後半はクラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解までを目指す。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・Javaについて
2	変数 (1)
3	変数 (2)
4	プログラムの流れの分岐 (1)
5	プログラムの流れの分岐 (2)
6	プログラムの流れの分岐 (3)
7	プログラムの流れの繰り返し (1)
8	プログラムの流れの繰り返し (2)
9	プログラムの流れの繰り返し (3)
10	基本型と演算
11	配列 (1)
12	配列 (2)
13	メソッド (1)
14	メソッド (2)
15	メソッド (3)
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。1年次を優先して登録する。

## 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

## 【テキスト】

柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)

## 【参考文献】

アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005)

柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)

柴田 望洋「明解 Javaによるアルゴリズムとデータ構造」ソフトバンククリエイティブ (2007)

## プログラミングⅡ

担当教員 小渡 悟

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・プログラミングⅠの復習
2	メソッド (1)
3	メソッド (2)
4	クラス (1)
5	クラス (2)
6	クラス (3)
7	クラス (4)
8	クラス変数とクラスメソッド (1)
9	クラス変数とクラスメソッド (2)
10	パッケージ
11	クラスの派生と多相性 (1)
12	クラスの派生と多相性 (2)
13	抽象クラス (1)
14	抽象クラス (2)
15	インタフェース
16	期末試験

## 【履修上の注意事項】

第1週目には出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。プログラミングⅠを取得済みの者、もしくは同等の知識を有する者のみ登録することができる。

## 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。課題・期末試験の成績を重視し、総合的に行う。

## 【テキスト】

柴田 望洋「明解 Java 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2007)

## 【参考文献】

アंक「Javaの絵本」翔泳社 (2005)

柴田 望洋, 由梨 かおる「解きながら学ぶJava 入門編」ソフトバンククリエイティブ (2008)

柴田 望洋「明解 Javaによるアルゴリズムとデータ構造」ソフトバンククリエイティブ (2007)

## プログラミングⅡ

担当教員 大井 肇

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。よって、プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。

言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	構造化プログラミングの復習 1
3	構造化プログラミングの復習 2
4	構造化プログラミングの復習 3
5	構造化プログラミングのまとめおよび試験
6	クラスの基本 1
7	クラスの基本 2
8	単純なクラスの作成 1
9	単純なクラスの作成 2
10	クラス変数とクラスメソッド 1
11	クラス変数とクラスメソッド 2
12	パッケージ
13	クラスの派生と多相性
14	抽象クラス
15	オブジェクト指向のまとめおよび試験
16	総括

## 【履修上の注意事項】

第1週目の欠席者について登録を取り消す場合があることに留意する。  
産業情報学科の学生以外は登録できない。プログラミングⅠを取得済みの者のみ登録を許可する。

## 【評価方法】

成績評価は、出席、受講態度、小テスト(4回以上)、期末試験等に基づいて総合的に評価する。  
なお講義内容は互いに密接に関連しているため可能な限りの出席を求める。

## 【テキスト】

明解Java 入門編 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ

## 【参考文献】

参考文献は、講義時に適宜紹介する。

## プログラミングⅡ

担当教員 安里 肇

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講義は、プログラミングⅠで、基本的なプログラミング技術を習得した者に対して、さらに応用的な技術習得を目指すものである。プログラミングⅠを履修した者のみ登録を受け付ける。言語としてJavaを採用し、様々なアルゴリズムを学び、クラスをはじめとするオブジェクト指向の基礎的な理解を目指す。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	構造化プログラミングの復習 1
3	構造化プログラミングの復習 2
4	構造化プログラミングの復習 3
5	構造化プログラミングのまとめおよび試験
6	クラスの基本 1
7	クラスの基本 2
8	単純なクラスの作成 1
9	単純なクラスの作成 2
10	クラス変数とクラスメソッド 1
11	クラス変数とクラスメソッド 2
12	パッケージ
13	クラスの派生と多相性
14	抽象クラス
15	オブジェクト指向のまとめおよび試験
16	総括

## 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。産業情報学科の学生以外は登録できない。プログラミングⅠを取得済みの者のみ登録する。

## 【評価方法】

評価は、出席状況(50点)と試験およびレポート(200点)の合計点数の8割以上優、7割以上良、6割以上可、6割未満不可とする。ただし、2回目の受講者は8割以上良、7割以上可、7割未満不可とする。

## 【テキスト】

明解Java 入門編 柴田望洋著 ソフトバンククリエイティブ

## 【参考文献】

開講時に指定する。

## プログラミングⅡ

担当教員 丸山 友希夫

対象学年 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

現代における情報化社会において、様々な種類、莫大な量のデータや情報が存在する。これらのデータや情報は効率よく管理、利用することにより様々な価値が生じる。本講義では、まず、データベースソフトのMicrosoft Accessを用いて簡単なデータベースを構築し、このAccess上でユーザインタフェースを作成して簡単なシステムを構築する。そして、プログラミング言語のVBA (Visual Basic for Application)を用いて、ユーザインタフェース上でデータベースのデータを管理、利用および拡張することを可能にし、データベースの概念、構築方法およびプログラミング技術を習得することと共に、データや情報の価値を見いだすことを目的とする。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	データベースの概念
3	データベースの構築①
4	データベースの構築②
5	データベースの構築③
6	データベースの構築④
7	VBAの基礎①
8	VBAの基礎②
9	VBAの基礎③
10	VBAの基礎④
11	VBAの応用①
12	VBAの応用②
13	VBAの応用③
14	課題発表①
15	課題発表②
16	課題提出

## 【履修上の注意事項】

- ・ 共通科目の「情報処理基礎」の単位取得者を本講義の登録対象者とする
- ・ 第1回目のガイダンスを欠席した場合は、履修登録を認めない
- ・ 演習講義のため、原則として遅刻は厳禁。また、30分以上遅刻した場合は、入室を禁止する
- ・ 1/3以上欠席した場合は課題発表の資格を認めず、課題未発表の場合は単位を認めない
- ・ 毎講義の最後に確認問題を課する

## 【評価方法】

確認問題30点（2点×15回）、課題発表70点の合計100点満点において80点以上「優」、70～79点「良」、60～69点「可」、60点未満「不可」で判定する。

## 【テキスト】

プリントを配付する（講義前にプリントアウトする）

## 【参考文献】

- ・ 適宜紹介する
- ・ インターネット上のWebページ作成ヒント集

## ベンチャー起業論

担当教員 杉浦 幹男

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

本講座は、新たな産業分野に取り組むベンチャー企業を対象に、そのあり方、成功・失敗事例等を理論的に学ぶとともに、自らベンチャーを起業することをシミュレーションする実践的な事業計画・経営計画作成の演習を行う。沖縄県はベンチャービジネスに対する公的支援も数多くある一方、起業率・廃業率ともに高く、関心は高いものの持続的な操業が困難という特徴がある。県内で成功するベンチャービジネスのメカニズムを、理論とともに学生諸君と考察していきたい。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ベンチャー企業論の基礎 ～ベンチャー企業とは。その概念と歴史～
2	ベンチャー企業の成功・失敗事例(1)
3	ベンチャー企業の成功・失敗事例(2)
4	ベンチャー企業の成功・失敗事例(3)
5	ベンチャー企業はなぜ必要か ～その社会的意義～
6	ベンチャー企業のマーケティング ～マーケティングの概念とベンチャーの位置づけ～
7	マーケティング実習(1) ～BS演習～
8	マーケティング実習(2) ～シミュレーション演習～
9	事業計画と経営計画の基礎
10	資金調達手法 ～県内での取り組みを想定～
11	プレゼンテーション手法の基礎
12	事業計画作成演習(1) ～作成方法・個別相談～
13	事業計画作成演習(3) ～プレゼンテーション～
14	経営計画作成演習(1) ～作成方法・個別相談～
15	経営計画作成演習(2) ～プレゼンテーション～
16	全体総括 ～今後県内で求められるベンチャービジネスとは～

## 【履修上の注意事項】

本講座は、演習を伴うため、できる限り毎回出席する意欲的な学生の受講を期待する。授業内で適宜課題を課すが、必ず各自で解答を作成して授業に臨むこと。

## 【評価方法】

宿題及び課題＝ 80 点、授業内での発言＝ 20 点、合計100 点により評価を行う。

## 【テキスト】

授業内で適宜指示する。

## 【参考文献】

『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第12 版』 フィリップ・コトラー&ケビン・レーン・ケラー[著] ピアソン・エデュケーション社 2008 年

## ベンチャー起業論

担当教員 大嶺 聡

対象学年 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

学生ベンチャー企業の起業事例や成功しているベンチャー企業事例などを参考に、ビジネスプラン成功のポイントを学ぶ。また、グループ演習をとおして、ビジネスアイデアの発想法やビジネスプラン作成を体験し、起業におけるビジネスアイデアの重要性とビジネスプランの必要性を理解する。

また、起業家の起業動機や体験談、そこで培った知識やノウハウなどを聴講し、ベンチャーマインドや起業時における成功ポイントを学ぶ。

## 【授業の展開計画】

始めにベンチャー企業の成功のポイントを講義し、グループ演習をとおして、ビジネスアイデア発想法とビジネスプラン作成方法について学習する。また、起業家に起業の動機や体験談などを講話してもらい、起業時の取り組み方や考え方など、具体的な成功ポイントを学ぶ。

週	授 業 の 内 容
1	概要説明 講義内容及び講義計画の説明
2	講義 1 (ベンチャー企業とは、ベンチャー起業家事例)
3	講義 2 (成功する経営戦略①)
4	講義 3 (成功する経営戦略②、ビジネスアイデア発想法)
5	講演 1 (ベンチャー企業経営者による講演)
6	講義 4 (ビジネスプランの作り方①)
7	講義 5 (ビジネスプランの作り方②、グループ演習の進め方)
8	講演 2 (ベンチャー企業経営者による講演)
9	演習 1 (ビジネスアイデアの発表、グループ編成)
10	演習 2 (ビジネスプランの作成：グループ演習)
11	演習 3 (ビジネスプランの作成：グループ演習)
12	演習 4 (ビジネスプランの中間報告：グループ演習)
13	演習 5 (ビジネスプランの作成：グループ演習)
14	演習 6 (最終発表まとめ：グループ演習)
15	演習 7 (ビジネスプランの発表と講評、講義まとめ)
16	

## 【履修上の注意事項】

- ・講義の進み具合や外部講師の都合によりカリキュラムを一部変更する場合があります。
- ・本講義中における私語、携帯電話やメールなど、他の受講生に迷惑をかける行為は禁止します。グループ演習の運営・進行方法等については、グループの自主性に任せますが、他グループやグループ内メンバーに不快を与えるような上記行為等は厳禁です。

## 【評価方法】

筆記試験は行いません。課題として受講者全員にビジネスアイデアを提出していただきます。また、起業家を招いた特別講演後にはレポートを提出していただきます。全グループにグループ演習で作成したワークシートやビジネスプランを提出してもらい、最後にグループ毎にビジネスプランを発表していただきます。

ビジネスプランコンテストの成績、グループ演習での取り組み姿勢、提出物、受講態度、出席状況等を考慮して総合評価いたします。なお、講義を4回以上欠席した場合は無条件で不可となります。

## 【テキスト】

- ・テキストは講義の際に配布いたします。

## 【参考文献】

なし

## 簿記原理 I

担当教員 多賀 寿史

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

## 【授業のねらい】

企業は、一年間の経済・経営活動を各種帳簿に記録・集計し財務諸表(成績表)を作成します。財務諸表の作成の目的は、企業の財産管理と企業利益の算定です。企業は、数年間の財務諸表を分析して経営改善に役立て、企業の利害関係者に財務諸表を公開し自らの会社の状態を報告します。本講義では、「経済活動を記録、整理、集計するプロセス」である複式簿記の仕組みの基本を学びます。本講義の最終目標は、複式簿記のシステムを理解し、基本財務諸表を作成できるようになることです。練習問題を解きながら理解を深めてもらいます。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・簿記の基礎	17	第11章「手形取引」(2)
2	第2章「資産・負債・資本・貸借対照表」	18	第12章「その他債権債務」(1)
3	第3章「収益・費用・損益計算書」	19	第12章「その他債権債務」(2)
4	第4章「簿記の記入法則」	20	第13章「有価証券の売買」(1)
5	第5章「仕訳帳と元帳への記入」	21	第13章「有価証券の売買」(2)
6	第6章「試算表と精算表、簿記の構造」(1)	22	第14章「固定資産取引」(1)
7	第6章「試算表と精算表、簿記の構造」(2)	23	第14章「固定資産取引」(2)
8	第7章「決算手続(その1)」(1)	24	第15章「個人企業の資本と税金」
9	第7章「決算手続(その1)」(1)	25	第16章「決算手続(その2)」(1)
10	第8章「現金・預金取引」(1)	26	第16章「決算手続(その2)」(2)
11	第8章「現金・預金取引」(2)	27	第16章「決算手続(その2)」(3)
12	第9章「商品売買取引」(1)	28	第16章「決算手続(その2)」(4)
13	第9章「商品売買取引」(2)	29	第16章「決算手続(その2)」(5)
14	第10章「掛取引」	30	期末試験その1
15	これまでの復習演習	31	期末試験その2
16	第11章「手形取引」(1)		

## 【履修上の注意事項】

毎回30分から1時間で解ける自宅課題を出します。復習をしながら複式簿記の仕組みと技法をマスターしましょう。自主課題なので強制ではありません。ご安心ください。電卓は毎回講義の時に持参をするようにしてください。配布プリントが多くなるのでプリントの管理は各自で怠らないようにお願いします。この講義は出席を取り、3分の1以上の欠席で自動的に不可とします。ご注意ください。目安は11回欠席で自動的に不可となります。

## 【評価方法】

課題の提出(30%)と期末試験(70%)で評価します。課題の提出が著しく悪い場合は、期末試験100%で評価します。どちらがいいかは各自の判断に任せます。繰り返しになりますが、3分の1以上の欠席(つまりは11回以上の欠席)で自動的に不可としますのでご注意ください。

## 【テキスト】

上江洲由正・大城建夫編『簿記の技法とシステム(第3版)』同文館出版  
多賀配布資料兼問題集

## 【参考文献】

講義の時に随時呈示します。

## 簿記原理 I

担当教員 新里 和也

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

個人商店でも大企業でも、経営を行うとそこにはさまざまな取引が生じます。その取引を記録・計算・整理する方法が「簿記」です。簿記は、経営の報告書、すなわち財務諸表を作成するために最も基礎となる知識であり、今日のビジネスの世界においては、簿記の知識は必須であります。本講座では、簿記の基本を、その前提知識を中心に演習を交えて習得していただきます。

### 【授業の展開計画】

第1章 簿記の意義

第2章 企業の財政状態と貸借対照表

第3章 企業の経営成績と損益計算書

第4章 取引

第5章 勘定記入

第6章 仕訳帳と総勘定元帳

第7章 試算表と清算表

第8章 決算手続

### 【履修上の注意事項】

1. 講義中に演習を行うこともあるので、電卓かそろばんを持参してください（定規、赤ペンもあると便利です）。
2. いずれの章も簿記理解の前提知識となります。欠席しないように頑張ってください。

### 【評価方法】

出席状況と定期試験結果により評価します。

### 【テキスト】

金井繁雅・海老原諭著『簿記原理入門』創成社  
その他その都度配布するプリント

### 【参考文献】

その都度紹介します。

## 簿記原理 I

担当教員 -上江洲 由正

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

企業活動を情報化する技法である複式簿記の基本的仕組みや原理について商業簿記を中心に講義する。具体的には、資産、負債、純資産（資本）、収益および費用の意味内容、経営活動の記帳ルールとプロセス、決算、経営活動を情報化した貸借対照表と損益計算書の作成を講義する。簿記は実学であるので、練習問題をできるだけ多く解いてもらい理解を深めてもらう。

## 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	複式簿記の意味と目的	17	売上総利益の計算
2	資産・負債・資本	18	売上帳・仕入帳等の作成
3	貸借対照表の作成	19	人名勘定と掛取引の記帳
4	収益、費用と損益計算書の作成	20	手形の記帳
5	取引と勘定	21	同上
6	仕訳と転記	22	その他の債権・債務の記帳
7	同上	23	第22回までの復習問題
8	試算表の作成	24	減価償却費の計算と記帳
9	6桁精算表の作成	25	貸倒引当金の記帳
10	決算	26	有価証券の記帳
11	同上	27	費用、収益の見越
12	現金および預金の記帳	28	費用、収益の繰延
13	同上	29	8桁精算表の作成
14	第13回までの総まとめ	30	財務諸表作成問題
15	総合問題	31	期末テスト
16	商品売買の記帳（3分法）		

## 【履修上の注意事項】

1回でも休むと次の授業が全くわからなくなるので、毎回出席のこと。  
 なお、テキストの持参がなければ講義は全く理解できず、したがって出席扱いとはならないので注意すること。

## 【評価方法】

テスト、出席状況、受講態度および宿題などの提出状況に基づき評価を行う。

## 【テキスト】

上江洲由正、大城建夫編著『簿記の技法とシステム（第3版）』同文館

## 【参考文献】

その都度紹介する。

## 簿記原理Ⅱ

担当教員 新里 和也

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

個人商店でも大企業でも、経営を行うとそこにはさまざまな取引が生じます。その取引を記録・計算・整理する方法が「簿記」です。簿記は、経営の報告書、すなわち財務諸表を作成するために最も基礎となる知識であり、今日のビジネスの世界においては、簿記の知識は必須であります。

本講座では、簿記原理Ⅰの内容を踏まえて、個別の取引から決算について演習を交えて習得していただきます。

### 【授業の展開計画】

第9章 現金・預金

第10章 商品売買

第11章 売掛金と買掛金

第12章 手形

第13章 その他の債権・債務

第14章 売買目的有価証券

第15章 有形固定資産

第16章 資本金と税金

第17章 収益と費用

第18章 伝票

第19章 決算

### 【履修上の注意事項】

1. 講義中に演習を行うこともあるので、電卓かそろばんを持参してください（定規、赤ペンもあると便利です）。
2. 欠席すると理解が難しくなります。欠席しないように頑張ってください。

### 【評価方法】

出席状況と定期試験結果により評価します。

### 【テキスト】

金井繁雅・海老原諭著『簿記原理入門』創成社  
その他その都度配布するプリント

### 【参考文献】

その都度紹介します。

## 簿記原理Ⅱ

担当教員 -上江洲 由正

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

企業活動を情報化する技法である複式簿記の仕組みや原理について、特殊商品売買や株式会社の簿記および本支店の簿記を中心に講義する。練習問題をできるだけ多く解いてもらい理解を深めてもらう。

## 【授業の展開計画】

第 1回	有価証券の特殊取引 (その 1)	第16回	株式会社の資本
第 2回	有価証券の特殊取引 (その 2)	第17回	利益の処分
第 3回	特殊な手形取引	第18回	損失の処理
第 4回	特殊商品売買 (その 1)	第18回	消費税など
第 5回	特殊商品売買 (その 2)	第20回	株式会社の税金
第 6回	特殊商品売買 (その 3)	第21回	本支店会計 (その 1)
第 7回	有形固定資産	第22回	本支店会計 (その 2)
第 8回	無形固定資産	第23回	本支店会計 (その 3)
第 9回	投資その他の資産	第24回	本支店会計 (その 4)
第10回	繰延資産	第25回	第23回までのまとめ
第11回	社債 (その 1)	第26回	貸借対照表 (その 1)
第12回	社債 (その 2)	第27回	貸借対照表 (その 2)
第13回	引当金	第28回	損益計算書 (その 1)
第14回	第12回までのまとめ	第29回	損益計算書 (その 2)
第15回	総合練習問題	第30回	総まとめ
		第31回	期末テスト

## 【履修上の注意事項】

簿記原理Ⅰの履修が条件となる。1回でも休むと次の授業が全くわからなくなるので、毎回出席のこと。なお、テキストの持参がなければ講義は全く理解できず、したがって出席扱いとはならないので注意すること。

## 【評価方法】

テスト、出欠状況、受講態度および宿題などの提出状況に基づき評価を行う。

## 【テキスト】

上江洲由正、大城建夫編著『簿記の技法とシステム (第3版)』同文館

## 【参考文献】

その都度紹介する。

## マルチメディア論

担当教員 中西 利文

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

情報とメディア，人間と人間，及び人間とコンピュータのコミュニケーションとメディアテクノロジーとの関係を中心に講義を行う。特にマルチメディアの特性について考察し，その利用による効果を考える。情報の表現，つまり，各種メディアをコンピュータで処理するためのデータの表現方法や，データに対するデジタル処理に関する問題，マルチメディア情報を取り扱う上での基礎知識（ハードウェアとソフトウェア），メディアリテラシーと社会倫理，画像及び動画データ処理の説明も行う。

### 【授業の展開計画】

- 1 講義ガイダンス マルチメディアとは？
- 2 コミュニケーションと情報？
- 3 インターネットとマルチメディア？
- 4 マルチメディアの構成要素（1）音声情報
- 5 マルチメディアの構成要素（2）画像情報
- 6 マルチメディアの構成要素（3）映像情報
- 7 中間試験
- 8 CG作成技術について（1）グラフィックソフト、CAD
- 9 CG作成技術について（2）3Dモデリングソフト
- 10 CG作成技術について（3）アニメーション
- 11 映像処理 ストリーミング技術
- 12 マルチメディアの活用例
- 13 マルチメディアの発達をもたらす社会
- 14 最終試験
- 15 試験解答・総括

### 【履修上の注意事項】

情報処理概論，プログラミング理論を履修した者のみ登録を受け付け，この科目を履修しないとマルチメディア実習（教職科目；集中講義）は登録できない。マルチメディア実習を受けるための基礎科目である。なお，第1週目に出席しない場合には登録を取り消す場合がある。

### 【評価方法】

試験および出席状況を総合的に判断し評価する。

### 【テキスト】

テキストは講義開始時に指定する。なお，ウェブサイトで講義時に使用するデータを公開する（講義で使用するパワーポイントでのテキストをPDF化し公開する）。

### 【参考文献】

講義時に使用するデータで随時紹介する。

## ロボットプログラミング

担当教員 小渡 悟

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 講義実技

単位数 2

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

LEGO MINDSTORMSを用いて移動自律ロボットを組み立て、センサからの外部入力に応じてロボットの動きを制御する仕組みを学ぶ。タイムトライアルによる競技を通して制御プログラムについて各自が創意工夫を行うことで問題解決能力を身につけることを目指す。プログラム言語としてC言語を用いる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション・ロボットの組み立て
2	順次処理・分岐処理・繰り返し処理
3	センサ入力による制御（1）
4	センサ入力による制御（2）
5	センサ入力による制御（3）
6	ライントレース制御（1）
7	ライントレース制御（2）
8	複数のセンサ入力による制御（1）
9	複数のセンサ入力による制御（2）
10	変数（1）
11	変数（2）
12	マルチスレッド
13	課題制作（1）
14	課題制作（2）
15	最終発表会（1）
16	最終発表会（2）

### 【履修上の注意事項】

第1週目に出席しない場合には登録を取り消す（出席できない場合は事前に連絡すること）。

ロボットの制御に興味がある学生の受講を希望します。

プログラミング言語としてC言語を用います。ある程度のシステム開発の知識、プログラミング技術が必要なため情報処理システム論、プログラミング理論、ウェブプログラミング、プログラミングI・IIを履修済みであることが望ましい

### 【評価方法】

出席回数が3分の2未満は不可。出席状況、活動状況、プレゼンテーション、レポート等を総合して行う。

### 【テキスト】

REALシリーズ ロボットと情報技術

### 【参考文献】

ETロボコン実行委員会「ロボットレースによる 組込み技術者養成講座」毎日コミュニケーションズ（2008）  
 藤吉 弘亘，鈴木 裕利，石井 成郎，藤井 隆司「実践ロボットプログラミング」近代科学社（2009）  
 アンク「Cの絵本」翔泳社（2002）